



Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 SP4

インストールレーションガイド

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 SP4 インストールガイド

(C) 2012-2014 MIRACLE LINUX CORPORATION. All rights reserved.

Copyright/Trademarks

Asianux®はミラクル・リナックス株式会社の日本における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国及びその他の国における、登録商標または商標です。

RPM の名称は、Red Hat, Inc.の商標です。

Intel、Pentium は、Intel Corporation の登録商標または商標です。

IBM、Power は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Oracle、Java は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

目次

第 1 章	インストールに関する注意事項.....	7
1.1	テキストモードインストール.....	8
1.2	テキストモードインストールの言語.....	8
1.3	システム最大構成.....	8
第 2 章	インストールの準備.....	11
2.1	概要.....	12
2.2	ハードウェア環境の確認.....	12
2.3	ネットワーク環境の確認.....	15
2.4	ソフトウェア環境の確認.....	16
2.5	使用目的の確認.....	17
2.6	ディスクパーティションの計画.....	17
2.7	LPAR へのインストール (IBM POWER).....	20
2.7.1	仮想ディスクの作成.....	20
2.7.2	インストールイメージの準備.....	22
2.7.3	LPAR の構築.....	24
2.7.4	LPAR の構成設定及び起動.....	26
2.7.5	VIOS への接続.....	26
2.7.6	LPAR へのインストール.....	27
2.7.7	LPAR の起動順序の変更.....	28
第 3 章	インストールの開始.....	33
3.1	概要.....	34
3.2	ブートの種類.....	35
3.2.1	DVD-ROM ブート.....	35
3.2.2	PXE ブート.....	38
3.3	インストールメディアの種類.....	43
3.3.1	DVD-ROM.....	43
3.3.2	HDD.....	44
3.3.3	NFS.....	45
3.3.4	FTP, HTTP.....	47

第4章 グラフィカルモード.....49

4.1	概要.....	50
4.2	言語選択.....	51
4.3	キーボード.....	52
4.4	デバイスの選択.....	52
4.5	ネットワークの設定.....	54
4.5.1	有線の設定.....	55
4.6	タイムゾーン設定.....	58
4.7	root パスワード.....	58
4.8	パーティション.....	60
4.8.1	パーティションの手動設定.....	62
4.8.2	パーティション作成.....	64
4.8.3	ソフトウェア RAID 設定.....	67
4.8.4	LVM 設定.....	69
4.9	ブートローダー.....	72
4.10	パッケージ選択.....	73
4.10.1	パッケージのカスタマイズ.....	74
4.11	インストール.....	76
4.12	インストール完了.....	76
4.13	インストール後の設定.....	78
4.14	ライセンス情報.....	79
4.15	ソフトウェア更新の設定.....	79
4.16	ユーザーの作成.....	83
4.17	日付と時刻.....	84
4.18	kdump.....	85
4.19	インストール後の設定の終了.....	87

第5章 テキストモード.....89

5.1	概要.....	90
5.2	言語選択 (Language Selection)	92
5.3	キーボード.....	93
5.4	デバイスの選択.....	93
5.5	タイムゾーン設定.....	94
5.6	root パスワード.....	95

5.7	パーティション.....	96
5.8	インストール完了.....	98
第 6 章	kickstart インストール.....	101
6.1	概要.....	102
6.2	kickstart インストールの設定.....	102
6.2.1	anaconda-ks.cfg ファイルの利用.....	102
6.2.2	キックスタート設定ツールの利用.....	105
6.3	kickstart インストールの実行.....	106
6.3.1	設定ファイルのコピー.....	106
6.3.2	kickstart インストールの実行.....	106
6.3.3	ブートプロンプトなしの kickstart インストール.....	107
第 7 章	VNC インストール.....	109
7.1	概要.....	110
7.2	インストール方法.....	110
7.2.1	tigervnc のインストール.....	110
7.2.2	VNC ビューアの起動.....	110
7.2.3	インストーラーの起動.....	111
第 8 章	ブートローダーのリストア.....	113
8.1	概要.....	114
8.2	ブートローダーのリストア機能の使用.....	114

第1章 インストールに関する注意事項

この章で説明する内容

目的	インストールに関して注意すべき点を解説する
機能	インストールの前にハード固有の問題等がないか確認を行う
設定ファイル	
章の流れ	1 テキストモードインストール 2 テキストモードインストールの言語 3 システム最大構成
関連 URL	

1.1 テキストモードインストール

テキストモードインストールにおいて、ネットワークの設定、パーティションの設定、パッケージの選択には対応していません。

ネットワークの設定、パーティションの設定、パッケージの設定を行いたい場合にはグラフィカルモードインストール、VNC インストール、あるいはキックスタートインストールを行ってください。

1.2 テキストモードインストールの言語

テキストモードインストールにおいて中国語、日本語、韓国語のメッセージ表示には対応していません。

テキストモードインストールを行う場合、メッセージは全て英語になります。

ベトナム語のメッセージ表示は英語とベトナム語の混在表示となります。

1.3 システム最大構成

最大、次の構成までサポートします。

最大論理 CPU 数

x86	32
x86_64	160
POWER	128

最大メモリ容量

x86	16GB
x86_64	3TB
POWER	2TB

最大ファイルと最大ファイルシステム容量

最大ファイル容量 (Ext3)	2TB
最大ファイルシステム容量 (Ext3)	16TB
最大ファイル容量 (Ext4)	16TB
最大ファイルシステム容量 (Ext4)	16TB
最大ファイル容量 (XFS)	100TB
最大ファイルシステム容量 (XFS)	100TB

第2章 インストールの準備

この章で説明する内容

目的	インストールの準備を行う
機能	インストールに必要な情報の確認を行うとともに、それらをもとにして計画を立てる
設定ファイル	
章の流れ	1 概要 2 ハードウェア環境の確認 3 ネットワーク環境の確認 4 ソフトウェア環境の確認 5 使用目的の確認 6 ディスクパーティションの計画 7 LPAR へのインストール (IBM POWER)
関連 URL	

2.1 概要

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6（以下、Asianux Server）をインストールする作業の中で、いくつかのデータを入力する必要があります。これらの入力データをあらかじめ調べておくことで、Asianux Server のインストールがより効率的に行えます。

また、サポートに問い合わせをする際などには、ハードウェア、ネットワーク、ソフトウェアなどの情報が必要です。これらを明確にしておくことによって、迅速な回答を得ることができます。

ここでは、Asianux Server をインストールする環境について何を調べ、何を決めておけばよいのかを説明します。

2.2 ハードウェア環境の確認

まず、Asianux Server をインストールするハードウェア（周辺装置を含むコンピュータ全体）について明らかにします。インストーラーが自動的に検出できる場合もありますが、問題が発生した場合の対応などにはハードウェアの情報が欠かせません。サポートへの問い合わせなどでも必要になるので、必ず確認してください。

必要な情報を漏らさずに調べるためのチェックリストを表 2-1 に用意しましたので、それを利用して確認するのがいいでしょう。各調査内容欄に記入していけば、ハードウェア環境を確認できます。

各項目の確認項目欄に記載された内容を満たしているかを確認してください。

注意

-
- Asianux Server は Pentium4 以降必須。
 - X Window System を利用する場合は、次の URL を参照してビデオカードの対応を確認してください。
<http://www.x.org/>
-

表 2-1 ハードウェア環境チェックリスト

項目	調査内容	確認項目
機種	メーカー：	インストールするコンピュータの機種を明記します。
	型番：	
ファームウェア	モード：BIOS / UEFI	UEFI モードを使用する場合は UEFI ブート対応機種か確認しておきます。UEFI モードは x86_64 のみ対応しています。
CPU	メーカー：	x86 版: Pentium4 以降の CPU x86-64 版: 64bit Xeon / AMD64 以降の CPU POWER 版: POWER7 以降の CPU
	周波数：MHz	
	個数：	
メモリ	容量：MB	512MB 以上必要、1GB 以上を推奨します。ただし POWER 版は 2GB 以上を推奨します。
	FSB：MHz	
ディスク	容量：GB	16GB 以上を推奨します。複数接続されている場合は、全てについて確認しておきます。
	メーカー：	
	型番：	
	インターフェイス：SCSI / IDE / SATA / PATA	
	台数：	
	容量：GB	
	メーカー：	
	型番：	
	インターフェイス：SCSI / IDE / SATA / PATA	
	台数：	
RAID コントローラ	メーカー：	
	型番：	
SCSI カード	メーカー：	複数ある場合は、全てのカードについて確認しておきます。
	型番：	
	メーカー：	
	型番：	

項目	調査内容	確認項目
LAN カード	メーカー :	複数ある場合は、全てのカードについて確認しておきます。
	型番 :	
	メーカー :	
	型番 :	
	メーカー :	
	型番 :	
	メーカー :	
	型番 :	
DVD-ROM	DVD-ROM からのブート : 可 / 不可	BIOS の設定で変更できる場合もあります。
キーボード	メーカー :	
	製品名 :	
	インターフェイス : PS/2 / USB	
	配列 :	
マウス	メーカー :	
	製品名 :	
	インターフェイス : PS/2 / USB	
	ボタンの数 :	
ビデオカード	メーカー :	SVGA (800x600) 以上に対応していること。 http://www.x.org/ を参照。
	型番 :	
	ビデオ RAM 容量 : MB	
ディスプレイ	メーカー :	
	解像度 : ×	
	水平同期周波数 : kHz	
	垂直同期周波数 : Hz	

2.3 ネットワーク環境の確認

Asianux Server をインストールするコンピュータがネットワークに接続される場合には、接続するネットワーク環境を確認しておきます。設定する項目を間違えた場合には、ネットワーク全体に悪影響を及ぼす可能性もありますので、ネットワークに接続する前に、ネットワークの管理者などに確認しておきます。

表 2-2 にしたがって、設定する項目を明確にします。

注意：

- FQDN (Fully Qualified Domain Name) とは、host.your.domain.name といった形式で表記されるドメイン名を含んだホスト名のことで、ネットワークに接続するコンピュータのホスト名を入力するときに使用します。インストール時のホスト名を FQDN で指定しなかった場合には、各種サーバープログラムが正しく動作しない場合があります。
- 設定項目で不明なものがあれば、接続するネットワークの管理者に必ず確認してください。

表 2-2 ネットワーク確認チェックリスト

項目	調査内容	確認項目
ホスト名		FQDN で指定する。
ドメイン名		
IPv4 アドレス		
IPv6 アドレス		
ネットマスク		
ゲートウェイ		
DHCP サーバー		
プライマリ DNS サーバー		
セカンダリ DNS サーバー		

2.4 ソフトウェア環境の確認

インストール中にはいくつかのソフトウェアに関する設定を行います。

あらかじめ、どのように設定するかを決めておきます。

表 2-3 ソフトウェア環境チェックリスト

項目	調査内容	確認項目
言語	インストール中：日本語／英語／中国語（簡体字、繁体字）／韓国語／ベトナム語／その他（ ）	
	インストール後：日本語／英語／中国語（簡体字、繁体字）／韓国語／ベトナム語／その他（ ）	
他に使用する OS		試験的に利用する場合に限ります。
ブートローダー	GRUB／yaboot／その他	
	GRUB を使う場合のインストール先： <input type="checkbox"/> MBR（Master Boot Record） <input type="checkbox"/> ブートパーティションの先頭	
時刻	日本時間／UTC／その他（ ）	
root の設定	パスワード：	忘れないものを選び、書き留めないようにします。
ハードディスクの暗号化	パスワード：	忘れないものを選び、書き留めないようにします。
X Window System	利用する／利用しない	X Window System を利用する場合、グラフィカルモードの場合は、本書 4.10 [パッケージ選択] で「すべて」、「デスクトップ」を選択するか、「カスタマイズ」から「X 基本」グループを選択します。テキストモードの場合は、インストール後にパッケージを追加してください。

注意：

- テキストモードインストールの場合、日本語が表示できないため、インストール時の言語は英語となります。
- ブートローダーの設定はテキストモードでは行うことができません。グラフィカルインストールで設定を行ってください。
- パッケージのカスタマイズもテキストモードでは行うことができません。インストール後にパッケージを追加するか、グラフィカルインストール、VNC インストール、またはキックスタートでパッケージのカスタマイズを行ってください。

2.5 使用目的の確認

コンピュータを使用する目的に応じて、どのようなソフトウェアが必要なのかを決めておきます。

Asianux Server では、「パッケージ選択」で「データベースサーバー」、「Web サーバー」、「仮想化ホスト」など用途別に合ったインストールタイプを選択することができます。さらに「カスタマイズ」を選択することにより、インストールするソフトウェアを自由に選択できます。ソフトウェアは種類別にグループ化されていて、グループ単位で選択したり、グループ内で個々のパッケージを選んだりできます。

必要なソフトウェアがあればインストール後でも必要に応じて追加できます。

2.6 ディスクパーティションの計画

Asianux Server のインストールでは、パーティションと呼ばれる領域をディスク内に複数設定します。どのようなパーティションを設定するかをあらかじめ決めておきます。

コンピュータ内の既存データを消去して Asianux Server を新たにインストールする場合の最も簡単な方法は、パーティションを自動設定するように選択することです。自動パーティション設定をしてから、変更や追加などの調整を手動で行うことも可能です。

少なくとも、「/」（ルートディレクトリ）用と swap 領域用の 2 つのパーティションが必要です。その他のパーティションについては、使用目的やディスク容量に応じて決定します。

ローカルディスクにシステムのクラッシュダンプを保存する場合、搭載メモリ以上の空き容量が /var/crash ディレクトリ以下に必要となります。

注意：

- ハードディスクやRAID カードによっては、作成できるパーティションの数に制限がある場合があります。
- /usr ディレクトリを「/」(ルート) パーティションとは別のパーティションに置かないようにしてください。システムが起動しない恐れがあります。
- /boot パーティションのファイルシステムは ext2, ext3, ext4 のいずれかにしてください。
- x86_64 アーキテクチャーでUEFI ブートを使用する場合はUEFI システム/パーティション用のパーティション (/boot/efi) を VFAT で作成してください。
- Software RAID を使用する場合は、/boot パーティションを必ず作成してください。

表 2-4 パーティション作成チェックリスト

作成するパーティション		デバイス名	ファイルシステム	暗号化	容量
例	/boot	/dev/sda1	ext4	<input type="checkbox"/>	250 MB
<input type="checkbox"/>	/boot/efi (UEFI ブートの場合は必須)		VFAT	<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/boot (推奨)			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/ (必須)			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	swap (必須)		swap	<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/usr			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/opt			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/var			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>	/home			<input type="checkbox"/>	MB

作成するパーティション		デバイス名	ファイルシステム	暗号化	容量
<input type="checkbox"/>	/tmp			<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	MB
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	MB

2.7 LPAR へのインストール (IBM POWER)

IBM POWER に Asianux Server をインストールする際は、VIOS から LPAR の区画割り当てを行う必要があります。区画割り当てが済んだ LPAR に対して、IVM を用いたインストールについて事例を元にインストールまでの説明を記載します。

管理コンソールへ接続するまでの手順については IBM の説明資料を参照ください。

注意：

- VIOS (Virtual I/O Server) とは、ディスク領域や通信に必要な物理アダプターを仮想化し、サーバー (LPAR) に対して資源を割り当てる機能です。
 - LPAR (Logical PARTition) とは、管理コンソールにより CPU やメモリなどの資源が区画割り当てされ、OS を構成することが可能な仮想領域です。
 - IVM (Integrated Virtualization Manager) とは、VIOS が提供する管理コンソール機能です。
-

2.7.1 仮想ディスクの作成

OS をインストールするためには、「2.6 ディスクパーティションの計画」で設計した必要ディスクサイズ分の仮想ディスクや物理ボリュームの記憶領域が必要となります。

IVM 管理画面より「仮想ストレージの表示／変更」を選択し、「仮想ディスク」タブの「仮想ディスクの作成」を選択すると、図 2-1 の画面のとおり、仮想ディスクの作成画面が表示されます。

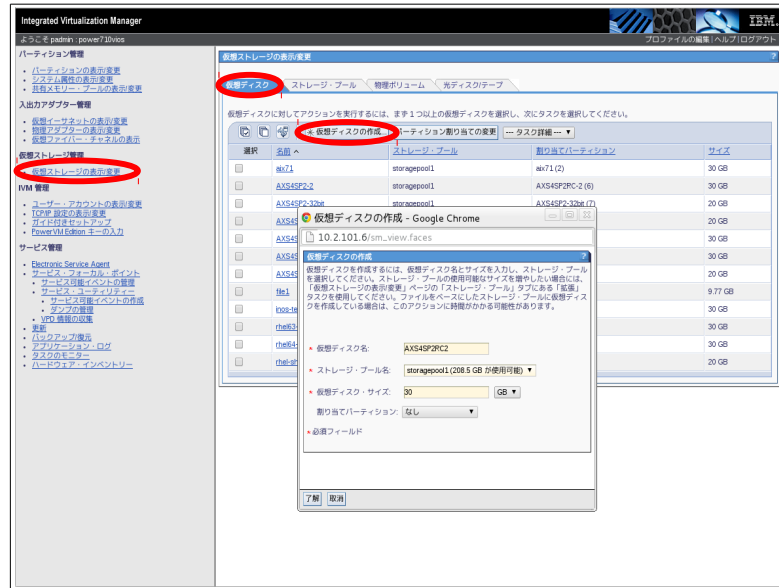


図 2-1 仮想ディスク作成画面

表 2-5 仮想ディスク作成チェックリスト

項目	内容	設定値例
仮想ディスク名	仮想ディスク名を設定します。他の仮想環境で重複されて使用されてしまうと問題を引き起こす場合があるため、ユニーク(一意)な名前を作成してください。	miraclelin ux6-64bit
ストレージプール名	複数の物理ディスクをまとめて1つの大きな仮想ディスクとして扱う機能で、ストレージプールは仮想ディスクの実データを保存するプールです。	storagepo ol-01
仮想ディスクサイズ	「2.6 ディスクパーティションの計画」にて計画された必要サイズ分を設定してください。	20GB
割り当てパーティション	必須フィールドではないため、なしを選択してしてください。LPAR上にシステム構築済みであり、後から記憶領域を追加する場合等に使用します。	なし

2.7.2 インストールイメージの準備

LPAR への Asianux Server のインストールは、インストール DVD メディアを用いる方法と、インストールイメージを用いる 2 つの方法があります。

インストールメディアを用いる場合は、LPAR にて認識しているインストールメディアの読み込み可能な光ディスク装置を用いて、インストールを行います。

インストールイメージを、Web などからダウンロードした場合は、インストールイメージを VIOS に転送後、仮想メディアとして扱い、インストールを行います。

Asianux Server のインストール DVD メディアは 2GB を越えているため、インストールイメージを VIOS に登録するには、2 つの方法があり、表 2-6 に示す「既存ファイルの追加」または「物理光ディスク装置からのインポート」のどちらかとなります。

表 2-6 LPAR 上のメディア登録方法一覧

項目	内容
メディアのアップロード	インストールイメージを VIOS サーバーへアップロードします。ただし、アップロード可能なイメージのサイズは 2GB までとなります。
既存ファイルの追加	インストールイメージを別な手段にて VIOS 上に保存し、そのファイルを仮想メディアとして扱う場合、こちらを選択します。
物理光ディスク装置からのインポート	物理的な媒体 (インストール DVD メディアなど) から、VIOS 上に仮想メディアイメージとして、イメージを吸い出して使用する場合は、こちらを選択します。
ブランク・メディアの作成	データが含まれていないダミーとなるメディアを作成する場合は、こちらを選択します。

「既存ファイルの追加」は、Asianux Server のインストールイメージを用意し、そのイメージファイルを VIOS 上に転送する必要があります。転送には以下の書式のように "scp" コマンドを利用し、padmin ユーザーのホームディレクトリに転送してください。

```
# scp Asianux_4-ppc64-dvddisc.iso padmin@<VIOSのIPアドレス>:
```

イメージファイルの転送後は、図 2-2 に示す「既存ファイルの追加」を選択し、メディアタイプ及び、光メディアのファイル名を選択します。

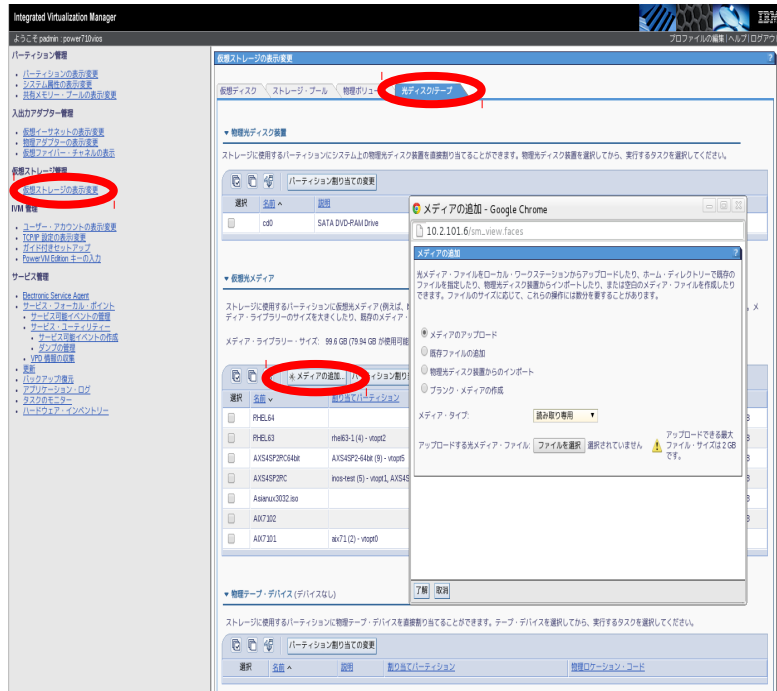


図 2-2 仮想メディア追加画面

表 2-7 仮想メディア登録チェックリスト

項目	内容	設定値例
メディアタイプ	<input type="checkbox"/> 読み取り専用 <input type="checkbox"/> 読み取り/書き込み	読み取り専用
光メディアのファイル名	メディアを選択します。	/home/padmin/Asianux_4-ppc64-dvddisc.iso

2.7.3 LPAR の構築

IVM 管理画面より LPAR のパーティションを作成するため、「パーティションの表示／変更」、「パーティションの作成」を選択し、CPU などの資源を割り当てます。

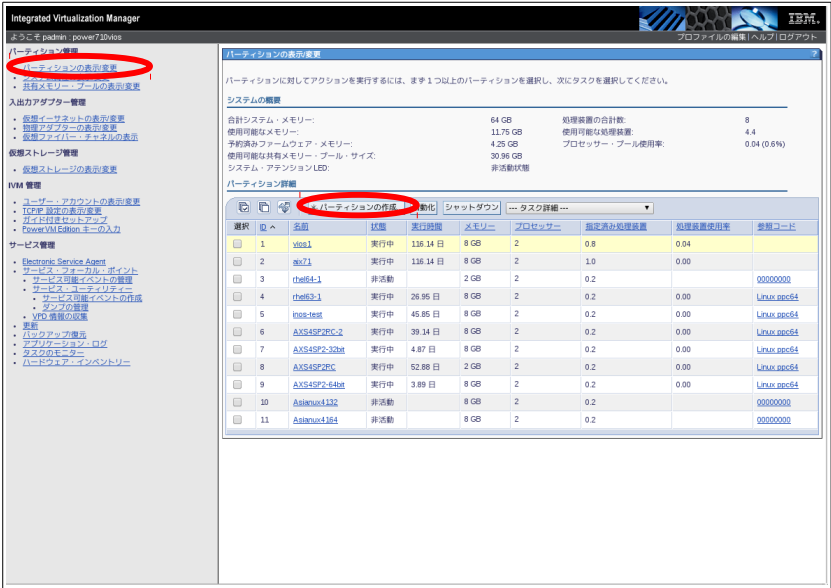


図 2-3 パーティション作成画面

表 2-8 に示す項目を設定したのち、完了を選択してください。IVM 管理画面からはストレージタイプ/ストレージ/光ディスク/テープの設定は提供されていないため、別途設定を行います。

表 2-8 LPAR 構築チェックリスト

項目	内容	設定値例
パーティション ID	VIOS が LPAR 管理するパーティション ID です。	自動採番
パーティション名	仮想マシンが識別できる名称を入力してください。 パーティション名にスペースを含めることはできません。	AXS4- DEMO
環境	対象 LPAR の環境を AIX/Linux 及び IBM/i から選択します。	AIX/Linux
メモリーモード	利用環境に応じてメモリーモードを選択してください。 <input type="checkbox"/> 共用: VIOS 内で作成した共用メモリの利用となります。 <input type="checkbox"/> 専用: 物理メモ리를 固定量、割り当てます。	共用
メモリー容量	メモリー容量:必要なサイズに応じて設定してください。	1.0GB
割り当てプロセッサ	プロセッサ: 必要な CPU 数を設定してください。	2
プロセッサ処理モード	<input type="checkbox"/> 共用: VIOS 内で適切なプロセッサ数を割り当てます。 <input type="checkbox"/> 専用: 物理プロセッサを占有し、割り当てます。	共用
イーサネット	ネットワークへ接続の仮想デバイスを設定します。	1-ent0
ストレージタイプ	IVM 管理画面からは設定できません。	---
ストレージ	IVM 管理画面からは設定できません。	---
光ディスク/テープ	IVM 管理画面からは設定できません。	---

2.7.4 LPAR の構成設定及び起動

2.7.3 にて作成した LPAR を選択し、ストレージと光ディスク/テープデバイスを選択します。ストレージは「ストレージ」タブの 2.7.1 で作成した仮想ディスクを選択し、光ディスク/テープデバイスは「光ディスク/テープデバイス」タブの 2.7.2 で作成した仮想光ディスク装置のメディアを選択します。

上記設定をした後、「一般」タブの「アテンション LED」を「活動状態」にし、了解を選択する事で、LPAR の起動は可能となります。

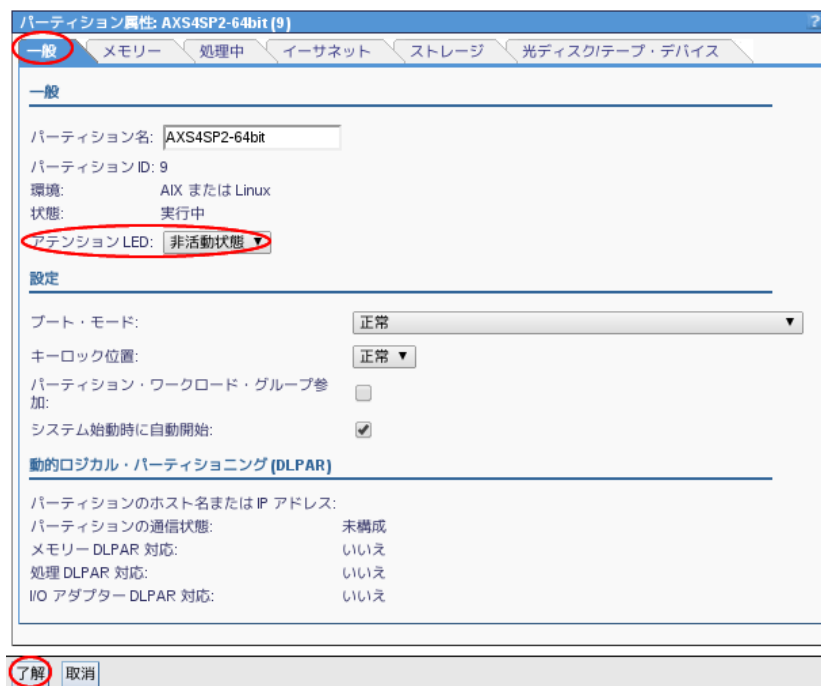


図 2-4 パーティション作成画面

2.7.5 VIOS への接続

Asianux Server をインストールするためには、インストールイメージから起動する設定や、インストール画面を確認する必要があり、仮想端末を用いて LPAR の設定を行います。特定のパーティションに接続するためには、「2.7.3 LPAR の構築」で作成したパーティション ID を用います。

ssh で VIOS へ接続する

```
# ssh padmin@<VIOSのIPアドレス>
```

VIOS 上に作成したパーティションへ接続し、仮想端末として表示する

```
$ mkvt -id <パーティションID>
```

仮想端末を生成する際、“Virtual terminal is already connected.” のエラーメッセージが出力される場合があります。これは、既に仮想端末にセッションがあることを意味しており、他に利用者がいない場合は、以下の方法で強制的にセッションを切断することができます。

```
# rmvt -id <パーティションID>
```

2.7.6 LPAR へのインストール

「2.7.5 VIOS への接続」後、Asianux Server のインストールの初期画面が仮想端末上に出力されます。

```
Welcome to the 64-bit Asianux Server 4SP2 installer!
Hit <TAB> for boot options.

Welcome to yaboot version 1.3.14 (Asianux 1.3.14-41.0.1.AXS4)
Enter "Help" to get some basic usage information
boot: _
```

インストールを続行する場合には“boot:”プロンプトの後に linux と入力し、[Enter] キーを押します。起動時に指定するブートオプションに関しましては 3.2 ブートの種類をご覧ください。仮想端末上ではテキストモードによるインストールが可能です。「第 5 章テキストモード」を参照ください。

GUI でグラフィカルなインストールをする場合は、「第 7 章 VNC インストール」を参照ください。VNC インストールする場合は、仮想端末に出力されている boot プロンプトへ以下のようなパラメータを渡し、別途用意する VNC ビューアから操作し、インストールを行います。

```
Boot: linux vnc IP=x.x.x.x NETMASK=x.x.x.x
```

VNC ビューアからは、上記設定した IP アドレスとターミナル番号を指定してインストール画面を操作します。

2.7.7 LPAR の起動順序の変更

LPAR への Asianux Server のインストールが完了した後、再起動を行うと、再びインストールイメージより起動されてしまうため、インストール済みの記憶領域からの起動するように設定を変更する必要があります。

システム管理サービスから起動設定の変更を行うには、以下の手順を用いて変更することができます。

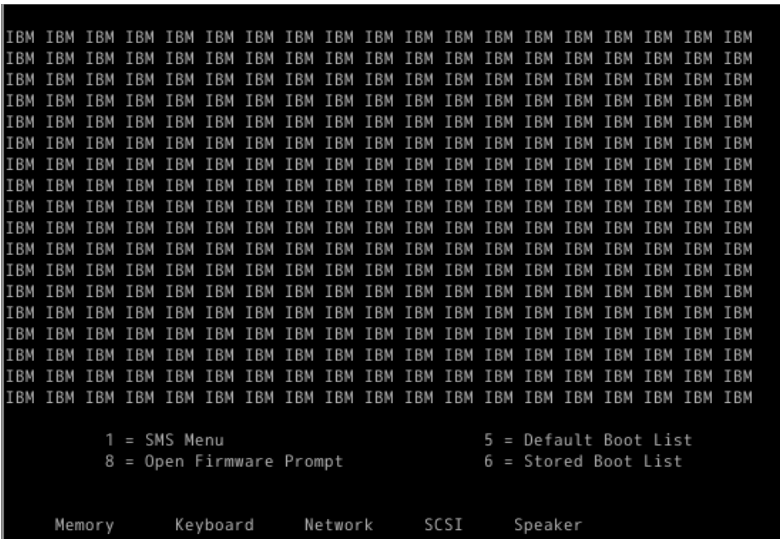


図 2-5 パーティション 起動時のメニュー

インストールした記憶領域に起動設定を変更するには、以下の手順にて各メニューを選択する必要があります。

以下の表の設定欄における「選択」と示した欄を、メニューから選択してください。

起動メニュー	内容	設定
SMS Menu	システム管理サービス(起動順序の変更などを設定することができます)	選択
Open Firmware Prompt	ファームウェアにあるプロンプトで操作する場合に利用します。	
Default boot list	通常起動する boot list を用いた起動を行います。	
Stored Boot List	メンテナンス用に保持された boot list を用いた起動を行います。	

メインメニュー	内容	設定
Select Language	システム言語を設定します。	
Setup Remote IPL (Initial Program Load)	リモートプログラムロードを設定します。	
Change SCSI Settings	SCSI 設定を変更します。	
Select Console	コンソールを選択します。	
Select Boot Options	ブートデバイスの設定を行います。	選択

Multiboot メニュー	内容	設定
Select Install/Boot Device	インストール/ブートデバイスの選択を行います。	
Configure Boot Device Order	ブートデバイスの確認を行います。	選択
Multiboot Startup <OFF>	多数端末の同時起動に関する設定を行います。	
SAN Zoning Support	ストレージ・エリア・ネットワーク ゾーニングのオプションを使用します。	

Configure Boot Device Order	内容	設定
Select 1st Boot Device	1 番目のデバイスを選択します。	選択
Display Current Setting	ディスプレイの設定を行います。	

Configure Boot Device Order	内容	設定
Restore Default Setting	過去の設定を復元します。	

Select Device Type	内容	設定
Diskette	ディスクット (floppy など) デバイスとして指定します。	
Tape	テープデバイスとして指定します。	
CD/DVD	CD/DVD デバイスとして指定します。	
IDE	IDE デバイスとして指定します。	
Hard Drive	Hard Drive デバイスとして指定します。	選択
Network	Network デバイスとして指定します。	
None	何も指定しないことになります。	
List All Devices	全てのデバイスを表示します。	

Select Media Adapter	内容	設定
Uxxxx vdevice	表示しているメディアアダプターを選択します。	選択
None	起動するデバイスなしとします。	
List all devices	全てのデバイスを表示する	

Select Device	内容	設定
SCSI xx GB Harddisk	ハードディスクを指定します。	選択
None	操作なしとします。	

Select Task	内容	設定
Information	SCSI の情報を表示します。	
Set Boot Sequence: Configure as 1st Boot Device	選択した第一ブートデバイスから実行します。	選択

[X]-[eXit System Management Services]を選択すると、reboot して Asianux Server 4 が起動します。

第3章 インストールの開始

この章で説明する内容

目的	インストールの種類やパターンを理解して、最もふさわしい手順をユーザーが選択でき、かつインストールを開始するところまで到達する
機能	ブート方法、インストール媒体、表示モードの選択
設定ファイル	
章の流れ	1 概要 2 ブートの種類 3 インストールの種類
関連 URL	

3.1 概要

Asianux Server をインストールする方法には、いくつかの方法があり、インストールする環境やユーザーの好みに応じて最適な方法を選択できます。

Asianux Server のインストール方法は次の選択肢の組み合わせで好みの方法を選択することができます。

1) ブート方法の選択

マシンの電源を投入した状態から、インストーラーを起動するための手段を選択します。

- **DVD-ROM** —— 「インストール DVD メディア」を使用します。インストール対象マシンが DVD-ROM ドライブからブート可能である必要があります。
- **PXE** —— 各サーバー（DHCP や TFTP など）を用意します。インストール対象マシンが PXE ブート可能である必要があります。

DVD-ROM ドライブからブートする場合、x86_64 アーキテクチャーではさらに BIOS モードと UEFI モードが選択できます。

- **BIOS モード** —— 従来の BIOS を用いてブートします。
- **UEFI モード** —— 容量が 2TB を超えるハードディスクを用いる場合、UEFI モードを選択します。インストール対象マシンが UEFI モードでブート可能である必要があります。

2) インストールメディアの選択

インストールに利用する媒体の格納先を選択します。

- **DVD-ROM** —— インストール対象マシンの DVD-ROM ドライブからデータを読み込みます。
- **HDD** —— インストール対象マシンの HDD にあらかじめコピーされたデータを読み込みます。
- **NFS** —— NFS サーバーを用意する必要があります。
- **FTP** —— FTP サーバーを用意する必要があります。
- **HTTP** —— HTTP サーバーを用意する必要があります。

3) インストール時の表示モードの選択

グラフィカルモードかテキストモードかを選択します。

- **グラフィカルモード** —— キーボードとマウスを使用する一般的なインストールモードです。(第 4 章参照)
- **テキストモード** —— ビデオカードやモニターその他の制限によりグラフィカルモードを使用できない場合のインストールモードです。(第 5 章参照)

最も一般的かつ簡単な方法は、DVD-ROM からブートして、そのまま DVD-ROM のデータを読み込んで、グラフィカルモードでインストールする方法です。

注意：

- テキストモードではパーティションのカスタムレイアウトやパッケージの選択、ネットワークの設定ができません。パーティションのカスタムレイアウトの設定や、パッケージの選択を行いたい場合は、グラフィカルモードでインストールしてください。
テキストモードでインストール後に、パッケージの追加やネットワークの設定を行うことができます。
- メモリが 640MB 未満の場合、自動的にテキストモードのインストーラーが実行されます。グラフィカルモードでインストールを行いたい場合はメモリを 640MB 以上に増やしてください。
- UEFI モードでのブートは x86_64 アーキテクチャーのみ対応しています。UEFI モードでのブートを行う前に UEFI モードで起動するよう設定を行なってください。
- 本インストールガイドでは、x86 版のインストール方法について説明しています。x86-64 版、POWER 版ではパッケージ名等が多少異なる場合があります。

3.2 ブートの種類

3.2.1 DVD-ROM ブート

DVD-ROM ドライブからブート可能なシステムの場合、この方法が最も簡単な方法です。「インストール DVD メディア」を DVD-ROM ドライブに入れてシステムを起動します。

注意：

- BIOS の設定によってはDVD-ROM ドライブよりも先にHDD やFDD などからシステムが起動されることがあります。このような場合には、まずDVD-ROM ドライブから起動するように BIOS の設定を変更してください。

UEFI モードを用いたブートの場合は、ブート開始時に次のようなメッセージが表示されます。

```
Trying to allocate 985 pages for VMLINUZ  
[Linux-EFI, setup=0x1017, size=0x3d87b0]
```

DVD-ROM ドライブからのブートに成功した場合、図 3-1 の開始画面が表示されます。



図 3-1 インストール開始画面

図 3-1 の画面では、通常 [Enter] キーを押すことで、DVD-ROM ドライブを利用したインストールと、グラフィカルモードによるインストールが選択されます。（第 4 章参照）

入力がないと 60 秒で自動的にデフォルトのオプションでブートします。

インストールメディアや表示モードを変更する場合は、ここで [Esc] キーを押すとブートプロンプトが表示されますので、オプションを入力します。

オプションは次のような書式で入力します。

```
boot: linux オプション1 オプション2 ...
```

1) インストールメディアの選択

インストールメディアを DVD-ROM 以外、例えばネットワーク経由にする場合は、**askmethod** を指定します。

```
boot: linux askmethod
```

また、linux repo オプションであらかじめインストールメディアを指定してインストールすることができます。

```
boot: linux repo=http://<URL>/<path>  
boot: linux repo=ftp://<URL>/<path>
```

2) 表示モードの選択

グラフィカルモードで正しく画面が表示できない場合や、グラフィカルインターフェイスを使いたくない場合には、テキストモードを選択してください。テキストモードのためのオプションは**text**です。（第5章参照）

```
boot: linux text
```

3) ドライバディスクの読み込み

「インストールDVD メディア」では対応していないデバイスのためのドライバディスクを読み込ませる場合には、**dd** オプションを指定します。

```
boot: linux dd
```

4) VNC インストール

別マシンの VNC Viewer からグラフィカルインターフェイスを使用してインストールを行う場合には、**vnc** オプションを指定します。（第7章参照）

```
boot: linux vnc vncconnect=<client>[:<port>]
```

注意：

- ブートオプションの入力ではキーボードが英語キーボードに設定されています。日本語キーボードを利用している場合、'=' を入力するには [^] キーを、':' を入力するには [Shift] + [;] キーを押してください。

3.2.2 PXE ブート

DVD-ROM ドライブが接続されていないシステム、あるいは多数のシステムに一度にインストールする場合は、ネットワーク経由でブートする **PXE** が適しています。PXE でのインストールを開始するには、インストールするシステムに PXE 対応のネットワークデバイスが必要です。また、DHCP と TFTP のサーバーが必要です（インストールメディアとして NFS / FTP / HTTP を選択する場合は、それらのサーバーも必要になります）。それぞれのサーバーは、同一のマシン上に構築することも、別々のマシン上に構築することもできます。

PXE ブートをする場合に必要な設定手順を以下に紹介します。各サーバーの詳細な設定については、サーバーの管理者に問い合わせてください。

(1) DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーを構成します。通常の DHCP サーバーとしての設定のほかにも、TFTP サーバーのための設定が追加が必要です。

- 1) dhcp パッケージがまだインストールされていない場合はインストールします。「インストールDVD メディア」を DVD-ROM ドライブに挿入してください。

```
# /bin/mkdir -p /media/cdrom  
# /bin/mount -r /dev/cdrom /media/cdrom  
# /bin/rpm -ivh /media/cdrom/Asianux/RPMS/dhcp-4.1.1-38.P1.AXS4.i686.rpm
```

- 2) 次に **/etc/dhcp/dhcpd.conf** を作成します。TFTP サーバーのために次の2行を追加する必要があります。

```
filename "pxelinux.0";
next-server xxx.xxx.xxx.xxx;
```

- filename は、この後で設定する TFTP サーバー上で pxelinux が使用されるためのものです。
- next-server の引数には、TFTP サーバーの IP アドレスを指定します。

すでにこれまで運用していた DHCP サーバーは、ほとんどの場合この 2 行を追加するだけで済みます。
修正後の **/etc/dhcpd.conf** の例を次に示します。

```
allow booting;
allow bootp;
ddns-update-style ad-hoc;
filename "pxelinux.0";
next-server 10.1.0.11;

subnet 10.1.0.0 netmask 255.255.0.0 {
    default-lease-time 604800;
    range 10.1.0.100 10.1.0.199;
    option routers 10.1.0.11;
    option subnet-mask 255.255.0.0;
    option domain-name-servers 10.1.0.11;
    option netbios-name-servers 10.1.0.11;
    option domain-name "miraclelinux.com";
}
```

- 3) **/etc/dhcpd.conf** の設定が終わったら、DHCP サーバーを起動します。すでに DHCP サーバーが起動している場合は start の代わりに restart を引数に指定します。

```
# /sbin/chkconfig dhcpd on
# /sbin/service dhcpd start
```

(2) TFTP サーバーの設定

TFTP サーバーを構成します。

- 1) tftp-server パッケージがまだインストールされていない場合はインストールします。ここで、xinetd がまだインストールされてなければ tftp-server と一緒にインストールしてください。
/media/cdrom に「インストール DVD メディア」がマウントされていない場合は先にマウントします。

```
# /bin/rpm -ivh /media/cdrom/Asianux/Packages/tftp-server-0.49-7.AXS4.i386.rpm
```

2) インストールが終わったら、/etc/xinetd.d/tftp ファイルの disable を yes から no に書き換えます。

```
# vi /etc/xinetd.d/tftp

(...)
service tftp
{
    socket_type          = dgram
    protocol             = udp
    wait                = yes
    user                 = root
    server               = /usr/sbin/in.tftpd
    server_args          = -s /var/lib/tftpboot
    disable              = yes # no に書き換える
}

(...)
```

修正後:

```
disable          = no
```

3) TFTP サーバーを有効にします。

```
# /sbin/chkconfig tftp on
# /sbin/service xinetd restart
```

(3) pxelinux の設定

syslinux パッケージに含まれている pxelinux を TFTP サーバーに設定します。

1) syslinux パッケージがまだインストールされていない場合はインストールします。

/media/cdrom に「インストール DVD メディア」がマウントされていない場合は先にマウントします。

```
# /bin/rpm -ivh /media/cdrom/Asianux/Packages/syslinux-4.02-16.AXS4.i686.rpm /media/cdrom/Asianux/Packages/syslinux-nonlinux-4.02-16.AXS4.i686.rpm
```

- 2) syslinux パッケージに含まれるドキュメント **/usr/share/doc/syslinux-4.02/pxelinux.txt** を確認します。これまでの設定と、これ以降の設定を確認できます。
- 3) 次に、**pxelinux.0** を TFTP サーバーにコピーします。TFTP サーバーがサービスするディレクトリは、デフォルトでは **/var/lib/tftpboot** です。

```
# /bin/cp /usr/share/syslinux/pxelinux.0 /var/lib/tftpboot
```

- 4) Asianux Server の PXE ブート用カーネルを TFTP サーバーにコピーします。

```
# /bin/cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/vmlinuz /var/lib/tftpboot
# /bin/cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/initrd.img /var/lib/tftpboot
```

- 5) pxelinux の設定ファイル **/var/lib/tftpboot/pxelinux.cfg/default** を作成します。

```
# /bin/mkdir /var/lib/tftpboot/pxelinux.cfg
# /bin/vi /var/lib/tftpboot/pxelinux.cfg/default
```

通常の **/var/lib/tftpboot/pxelinux.cfg/default** の内容は次のようになります。

```
default linux
prompt 0
label linux
kernel vmlinuz
append initrd=initrd.img
```

PXE とネットワークインストレーション (NFS/FTP/HTTP) と第 6 章で紹介するキックスタートとを組み合わせると、入力作業がほとんど必要ないインストレーションを実施できます。例えば、HTTP とキックスタートを利用するための設定は次のようになります。

```
default linux
prompt 0
label linux
kernel vmlinuz
append ksdevice=eth0 ip=dhcp method=http://x.x.x.x/kit ks=http://x.x.x.x/ks.cfg
initrd=initrd.img
```

method=にはインストール DVD メディアを展開したディレクトリ (以降の節で説明します) の URL を指定し、ks=にはキックスタートの設定ファイルを指定します。

6) 以上でサーバー側の準備は完了です。

「インストール DVD メディア」を利用していた場合はアンマウントします。

```
# /bin/umount /media/cdrom
```

7) Asianux をインストールするマシン側では、BIOS 設定を確認します。ブートデバイスの順序で、PXE デバイスが最初になっているかどうかを確認し、なっていない場合は変更して最初に設定します。

以上で PXE ブートのための準備は完了です。インストールされるシステムを起動してください。正しく設定されている場合は、インストーラーが起動します。

PXE ブートに成功すると、インストールの種類として次の 5 種類の中からどれか 1 つを選択できます。それぞれについては以降の節で説明します。

- DVD-ROM
- HDD
- NFS
- FTP
- HTTP

3.3 インストールメディアの種類

ブートオプションで "linux askmethod" を入力した場合と PXE ブートを行った場合、言語とキーボードの設定後に 5 種類のインストールメディアを選択することができます。

ここからは、5 種類のインストールメディアのそれぞれについて説明します。

3.3.1 DVD-ROM

インストールメディアとして DVD-ROM を利用するには、インストールするシステムの DVD-ROM ドライブに「インストール DVD メディア」が入っていることを確認して、「インストール方法」(Installation Method) 画面で「ローカル CD/DVD」(Local CD/DVD) を選択します。DVD-ROM ドライブからマシンを起動した場合は、通常 DVD-ROM を利用したインストールが継続して実施されるため、インストール方法を選択する必要がありません。

DVD-ROM ドライブからインストールする場合、インストール DVD メディアの読み込みテストを行うか尋ねられるので、テストを行う場合は [OK]、行わずにインストールを開始する場合は [Skip] を選択します。

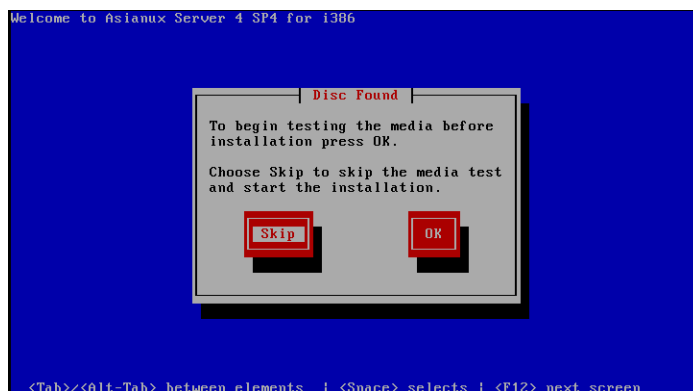


図 3-2 読み込みテスト実行確認

3.3.2 HDD

インストールメディアとしてHDDを利用するには、インストールするシステムに接続されているHDDのどれか1つのパーティションにインストールDVDメディアのISOイメージファイルを置いておく必要があります。また、そのパーティションはext2、ext3、etx4、VFATのいずれかの形式でなくてはなりません。

「インストール方法」(Installation Method)画面で「ハードドライブ」(Hard drive)を選択すると、図3-3のようにパーティションの選択画面が表示されます。

ここでイメージファイルが置いてあるパーティションを選び、ディレクトリ名を入力します。インストーラーは指定されたディレクトリ内のファイルを走査してイメージファイルを探し出すので、イメージファイル名自体を入力する必要はありません。イメージファイルを検出できたら、インストールが続行されます。

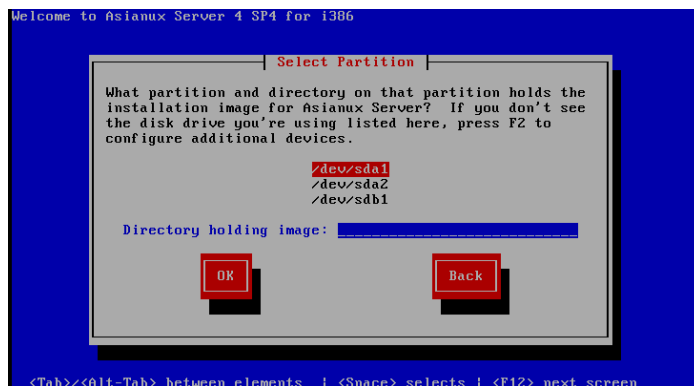


図 3-3 HDD 設定

3.3.3 NFS

インストールメディアとして NFS を利用するには、あらかじめ NFS サーバーを用意して、インストールイメージを展開したディレクトリをエクスポートしておく必要があります。

エクスポートするディレクトリには、「インストール DVD メディア」の全てを展開しておきます。展開先のファイルシステムに十分な空き容量（ia32 アーキテクチャーでは 3.2GB、x86_64 アーキテクチャーでは 3.8GB、POWER では 3.0GB 程度）があることを確認してから展開してください。

DVD-ROM ドライブを **/media/cdrom** ディレクトリにマウントして、中身を **/kit** ディレクトリに展開する例を示します。

```
# /bin/mkdir -p /kit
```

ここで「インストール DVD メディア」をドライブに挿入します。

自動的にマウントされた場合は次の mount 処理を実行せず、/media/cdrom のかわりにマウントされたディレクトリ名を使用してください。

```
# /bin/mkdir -p /media/cdrom
```

```
# /bin/mount -r /dev/cdrom /media/cdrom
```

```
# /bin/tar cf - -C /media/cdrom . | /bin/tar xpf - -C /kit
```

```
# /bin/umount /media/cdrom
```

「インストール方法」(Installation Method) 画面で「NFS ディレクトリ」(NFS directory) を選択すると、TCP/IP を設定する画面が表示されます (図 3-4)。DHCP を選ぶか、固定 IP アドレスと必要な情報を入力してください。

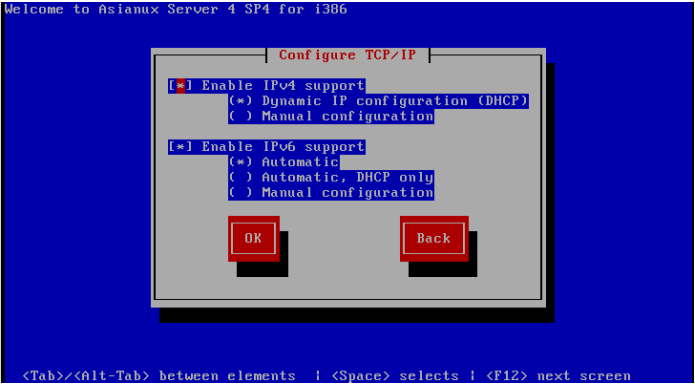


図 3-4 TCP/IP 設定

TCP/IP を正しく構成できると、NFS 設定画面が表示されます（図 3-5）。NFS サーバーの名前または IP アドレスと、サーバーがエクスポートしている NFS のディレクトリ名を入力してください。ディレクトリのマウントに成功すると、インストールが始まります。

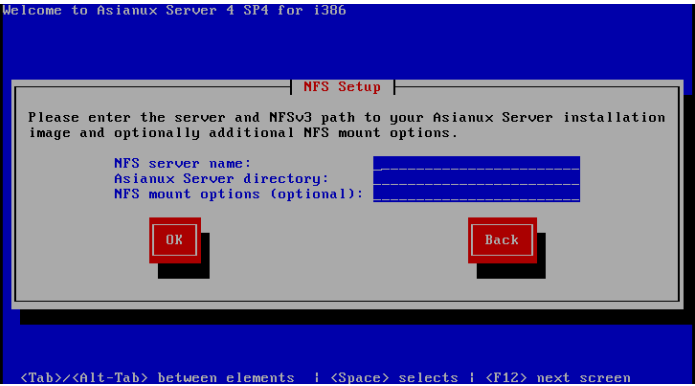


図 3-5 NFS 設定

3.3.4 FTP, HTTP

インストールメディアとして FTP、HTTP を利用するには、あらかじめ FTP、HTTP サーバーを用意して、サーバーにインストールイメージを展開したディレクトリを用意しておく必要があります。このディレクトリには、「インストール DVD メディア」の全てを展開しておきます。展開方法は 3.3.3「NFS」を参照してください。

「インストール方法」(Installation Method) 画面で「URL」を選択すると、46 ページの図 3-4 のようにネットワークの TCP/IP を設定する画面が表示されます。DHCP を選ぶか、固定 IP アドレスと必要な情報を入力してください。

TCP/IP を正しく構成できると、図 3-6 のように URL の入力画面が表示されます。ここで FTP、HTTP サーバーの名前または IP アドレスと、サーバー上の Asianux のディレクトリ名を入力してください。

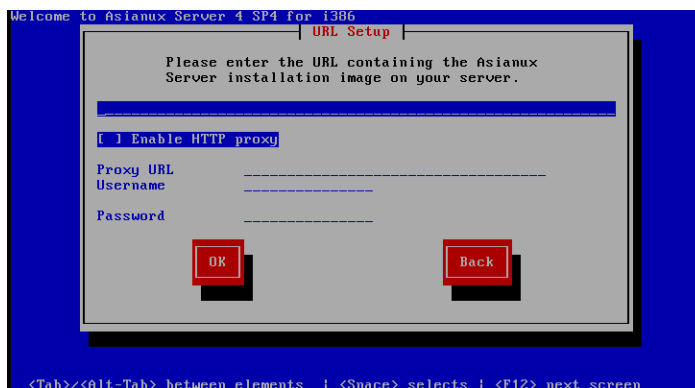


図 3-6 FTP, HTTP の設定

FTP、HTTP でパスワードを指定する必要がある場合は、次の形式で URL を入力してください。

```
ftp://<username>:<password>@<hostname or IP address>/<path>
http://<username>:<password>@<hostname or IP address>/<path>
```

FTP、HTTP 経由でのインストールデータの取り込みに成功すると、続いてインストールが始まります。

第4章 グラフィカルモード

この章で説明する内容

目的	グラフィカルモードでのインストールを理解する	
機能	グラフィカルモードが提供するシステム構成、パッケージ構成	
設定ファイル		
章の流れ	<div><div><div>1 概要</div><div>2 言語選択</div><div>3 キーボード</div><div>4 デバイスの選択</div><div>5 ネットワークの設定</div><div>6 タイムゾーン設定</div><div>7 root パスワード</div><div>8 パーティション</div><div>9 ブートローダー</div><div>10 パッケージ選択</div></div><div><div>11 インストール</div><div>12 インストール完了</div><div>13 インストール後の設定</div><div>14 ライセンス情報</div><div>15 ソフトウェア更新の設定</div><div>16 ユーザーの作成</div><div>17 日付と時刻</div><div>18 インストール後の設定終了</div></div></div>	
関連 URL		

4.1 概要

グラフィカルモードでのインストールについて、表示される画面をもとに説明します。

グラフィカルモードでは、マウスポインタを項目に合わせ、クリックすることで選択できます。また、画面下部に表示される以下のボタンをクリックすることで画面を操作できます。

表 4-1 グラフィカルモードのボタン操作

ボタン名	操作
[次 (N)] ボタン、[Next] ボタン	選択した項目を確定して、次の画面を表示する。
[戻る (B)] ボタン、[Back] ボタン	前の画面に戻る。

グラフィカルモードでインストーラーが作動すると、最初の画面が表示されます（図 4-1）。[Next] ボタンをクリックして先に進んでください。

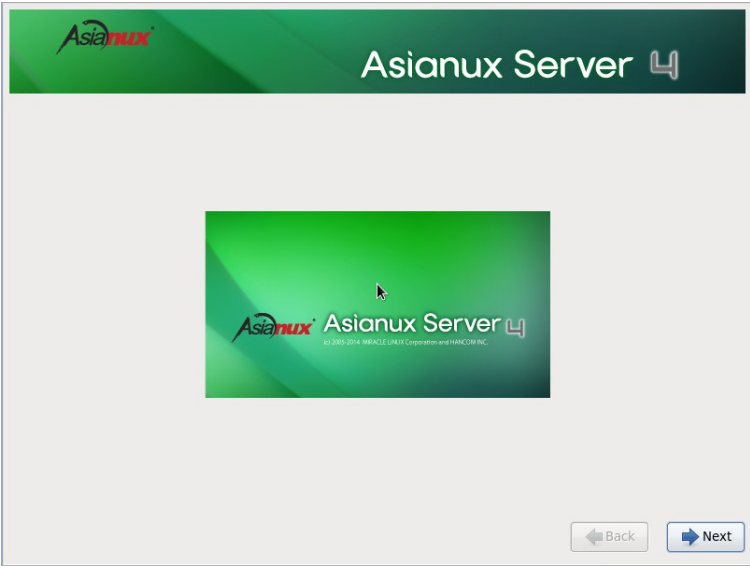


図 4-1 スタート

注意：

- マウス操作で [Next] や [次 (N)] をクリックしても、ボタンが反応しない場合があります。一度マウスポインタをボタンから外し、再度ボタンをクリックしてください。

4.2 言語選択

インストール時に使用する言語を一覧から選択します。

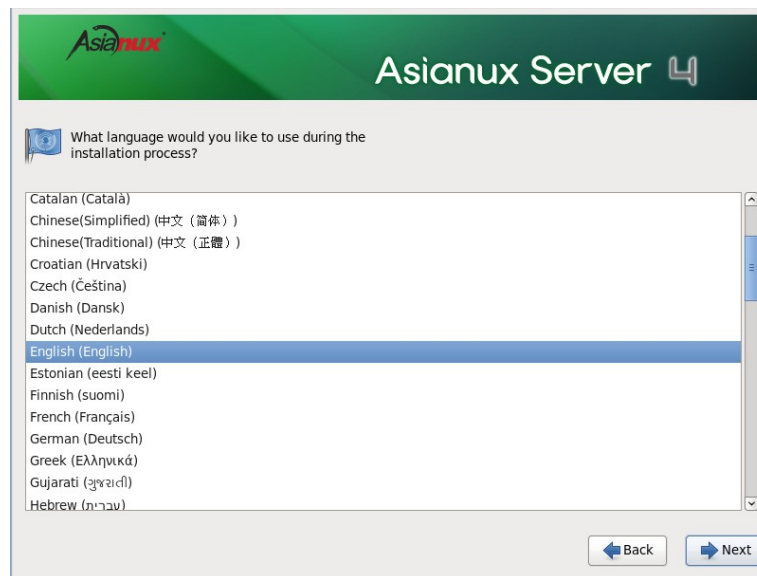


図 4-2 言語選択

ここで選択した言語がインストール後のシステムで使用する標準の言語になります。

4.3 キーボード

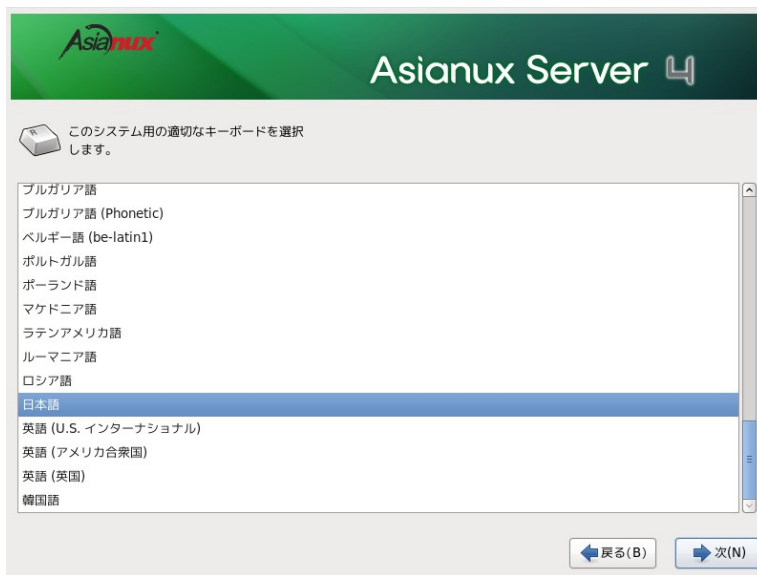


図 4-3 キーボード

使用するキーボードの設定をします。

日本語配列のキーボードの場合は [日本語] を選択してください。

英語配列のキーボードの場合は [英語 (アメリカ合衆国)] を選択してください。

キーボードを選択したら、[次 (N)] ボタンをクリックして次のステップに進みます。

4.4 デバイスの選択

デバイスの選択を行います。一般的なストレージデバイスにインストールする場合は「基本ストレージデバイス」を、SANs (Storage Area Networks)、DASDs (Direct Access Storage Services)、Multipath デバイスなどのデバイスにインストールする場合は「エンタープライズストレージデバイス」を選択します。どちらの選択肢が良いかわからない場合は、「基本ストレージデバイス」を選択してください。



図 4-4 デバイスの選択

既に Asianux Server がインストールされている場合、「新規インストール」が「既存インストールのアップグレード」かを尋ねられます。いずれかのラジオボタンを選択し、「次 (N)」ボタンを押します。

4.5 ネットワークの設定

図 4-5 の画面でホスト名の設定を行います。ホスト名を入力してください。



図 4-5 ホスト名の設定

注意：

- ホスト名を指定する場合は、必ず FQDN（Fully Qualified Domain Name [hostname.example.com] の形式）で入力してください。FQDN を指定しなかった場合には、ネットワークを利用するプログラムが正常に動作しない可能性があります。
- ホスト名に使用出来る文字は "a-z", "A-Z" のアルファベット、"0-9" の数字、ハイフン "-", ピリオド "." のみとなります。
- 設定内容がわからない場合には、接続するネットワークの管理者に必ず問い合わせてください。

図 4-5 の画面の左下に[ネットワークの設定]ボタンがありますので、「ネットワークの設定」ボタンを押してください。



図 4-6 ネットワークの設定

ネットワーク接続のウィンドウが現れますので、設定を行う項目をクリックしてから【編集】ボタンを押し、設定を行ってください。

4.5.1 有線の設定

まずネットワークデバイスの名前 (System ethX) をクリックし、【編集】ボタンを押します。ネットワークの設定を追加したい場合には、【追加 (A)】ボタンを、削除したい場合には【削除】ボタンを押してください。ブート時にネットワークに自動的に接続する場合は「自動接続する (A)」のチェックボックスにチェックを入れておいてください。

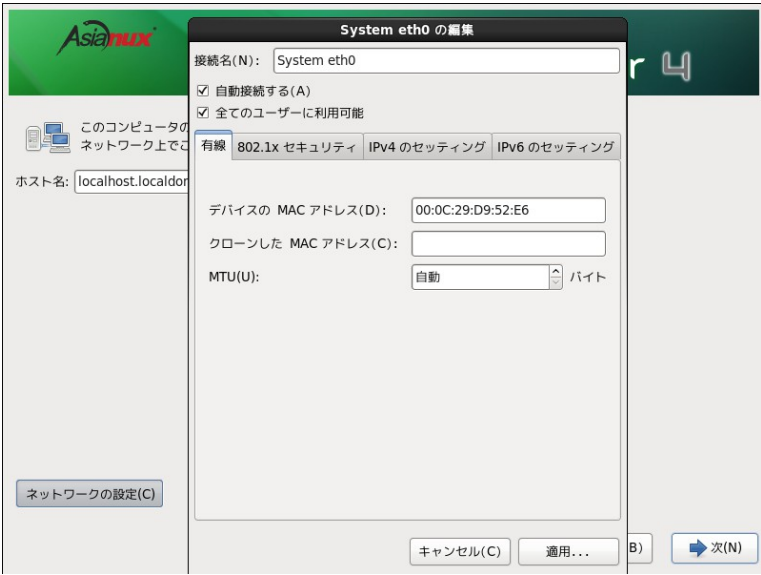


図 4-7 有線の設定

有線、802.1x セキュリティ、IPv4 のセッティング、IPv6 のセッティングのタブがありますので、設定を行う項目のタブをクリックしてから各項目の設定を行ってください。

(1) IPv4 の設定

表 4-2:IPv4 のセッティング

自動 (DHCP)	DHCP で IP アドレスを自動的に割り振ります。
自動 (DHCP) アドレス専用	DHCP で IP アドレスを自動的に割り振りますが DNS サーバーと検索ドメインを手動で設定します。
手動	固定 IP アドレスを手動で設定します。
ローカルへのリンク専用	169.254/16 のリンクローカルアドレスを自動的に割り当てます。
他のコンピュータへ共有	他のコンピュータとネットワーク共有を行います。DHCP で 10.42.x.1/24 のアドレスを割り当て NAT を用いたネットワークの接続を行います。
無効になっています	IPv4 プロトコルでの接続を無効にします。

(2) IPv6 の設定

表 4-3:IPv6 のセッティング

無視する	IPv6 プロトコルでの接続を無視します。
自動	ルータ広告 (RA) を用いて自動的に設定します。
自動、アドレスのみ	ルータ広告 (RA) を用いて設定しますが、DNS サーバーと検索ドメインを手動で設定します。
自動、DHCP のみ	ルータ広告 (RA) を用いずに、DHCPv6 から直接情報をリクエストします。
手動	固定 IP アドレスを手動で設定します。
ローカルへのリンク専用	fe80::/10 のリンクローカルアドレスを自動的に割り振ります。

固定 IP アドレスを設定する場合には IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイを入力します。[追加] ボタンを押して IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイを入力してください。

4.6 タイムゾーン設定



図 4-8 タイムゾーン

日本語でインストールしている場合は、タイムゾーンが「アジア／東京」が自動的に設定されます。タイムゾーンをリストボックスの一覧表から選択するか、地図上をクリックするかして決定してください。UTC を使用する場合は[システムクロックで UTC を使用 (S)] のチェックボックスにチェックを入れてください。

4.7 root パスワード

システムの root ユーザーのパスワードを設定します。確認のため 2 回入力します。



The image shows the Asianux Server login interface. At the top, there is a green header with the 'Asianux' logo on the left and 'Asianux Server' with a small icon on the right. Below the header, there is a message in Japanese: 'root ユーザーはシステムの管理用に使います。root ユーザーのパスワードを入力してください。' (The root user is for system management. Please enter the root user's password). Below this message are two input fields: 'root パスワード(P):' and '確認(C):'. At the bottom right, there are two buttons: '戻る(B)' (Back) and '次(N)' (Next).

図 4-9 root パスワード

辞書の単語を用いた弱いパスワードを入力すると、「あなたは弱いパスワードを与えています：辞書の単語に基づいています」というダイアログが表示されます。以下の注意で説明されているようなパスワードを指定するようにしてください。

注意：

- パスワードは6文字以上でなければなりません。覚えやすく、容易に推測できないもので、大文字、小文字、数字、記号を含むものが良いパスワードだとされています。
- 辞書に載っている単語、固有名詞（人名、地名）、個人情報（ニックネーム、電話番号）、キーボードの並び順を使用したパスワードなどの弱いパスワードを使用しないようにしてください。
- rootは強力な権限を持っています。外部からの侵入者に容易に推測できるパスワードを設定していると、システムが侵入者に制御される恐れがあります。

上記注意事項を理解した上で、弱いパスワードを設定する場合は、ダイアログから「とにかく使用する(U)」を選択することで、次へ進むこともできます。パスワードを変更する場合は、ダイアログから「キャンセル(C)」を選択し、再度パスワードを入力してください。

4.8 パーティション

パーティションの設定方法を以下の5つから選択します。



図 4-10 パーティションの設定選択画面

- すべての領域を使用する
- 既存の Linux システムを入れ替える
- 現在のシステムを縮小する
- 空き領域を使用する
- カスタムレイアウトを作成する

パーティション設定を全てユーザーが行う場合は[カスタムレイアウトを作成する]を選択します。それ以外を選択すると自動でパーティションが設定されます。現在のパーティションを消去したくない場合は[選択したドライブ上の空き領域を使用して、デフォルトレイアウトを作成します。]を選択します。

自動で設定されたパーティションの構成を確認したり変更する場合は、[パーティションのレイアウトをレビューまたは修正する(V)]のチェックボックスをオンにします。この状態で[次(N)]ボタンをクリックすると、パーティションのカスタマイズ画面に移ります。このチェックボックスがオフの状態で[次(N)]ボタンをクリックすると、パーティションが作成され、パッケージの選択画面に移ります。

[システムを暗号化する(E)] のチェックボックスをオンにすると /boot パーティションを除いたシステムが暗号化されます。

注意：

- パーティションは単一にするのではなく、分割することでファイルシステムの障害や容量不足などのトラブル範囲を部分的に抑えることができます。
 - ハードディスクやRAID カードによっては、作成できるパーティションの数に制限がある場合があります。
 - ファイルシステムサイズの縮小は Linux パーティションのみ対応しています。
 - LVM パーティション領域の縮小は、インストール前にあらかじめ縮小してからインストール作業を行ってください。
 - [現在のシステムを縮小する] を選択して、他の OS がインストールされているパーティションを縮小すると、十分な領域がないとその OS が動作しない可能性があります。
 - システムにすでにデータが格納されている場合には、安全のために必ず事前にバックアップを実施してください。
-

4.8.1 パーティションの手動設定

既存のパーティションをそのまま使う場合は、[編集(E)] を選択してパーティションのマウントポイントを指定します。



図 4-11 パーティションの手動設定画面

新たにパーティションの設定を行う場合は、必要に応じて既存のパーティションを [削除(D)] してから [作成 (C)] で追加します。

作成(C)	新しいパーティションを追加します。
編集(E)	選択されているパーティションのマウントポイントやファイルシステムの種類を変更できます。
削除(D)	選択されているパーティションを削除します。
リセット(S)	それまでに行った全ての変更を無効にして、元の状態に戻します。

注意：

- 初期状態では既存のパーティションが表示されます。
 - パーティション番号（デバイス欄に表示されるデバイス名の最後の数字）は指定できません。
 - 「パーティションの編集」でパーティションのサイズの変更を行うことができますが、パーティションの縮小のみ行えます。パーティションの拡大を行いたい場合は、一度パーティションを削除し新しいパーティションを作成してください。
 - /boot パーティションは ext2, ext3, ext4 で作成してください。それ以外のファイルシステムは使用しないでください。
 - x86_64 アーキテクチャーで UEFI ブートを使用する場合は、UEFI システム/パーティション用のパーティション (/boot/efi) を VFAT で作成してください。
 - Software RAID を使用する場合は /boot パーティションを作成してください。
 - 「/」（ルート）パーティションとスワップパーティションを設定しないと次のステップに進めません。
 - すべてのパッケージをインストールするには、/（ルート）に最低 10GB の領域が必要となります。その他の構成にする場合においても、4GB 程度の領域は確保してください。
-

4.8.2 パーティション作成



図 4-12 パーティション新規作成

図 4-11 の画面で [作成 (C)] ボタンを押すと、図 4-12 が表示されます。次の 3 つのパーティションタイプから選んでください。

表 4-4: 作成できるパーティションの種類

標準パーティション	標準のパーティションを作成します。
RAID パーティション	RAID フォーマットしたパーティションを作成します。
LVM 物理ボリューム	LVM フォーマットしたパーティションを作成します。

標準パーティションを作成するときに指定できるファイルシステムタイプは、ext2、ext3、ext4、VFAT などを選択できます。またソフトウェア RAID や LVM 用のパーティションも作成することができます。一度作成したパーティションを後で変更することは難しいため、インストール前に十分に検討した上でパーティションの作成、ファイルシステムの指定を行ってください。



図 4-13 パーティション追加

図 4-12 の画面で標準パーティションを選択し [作成する (R)] ボタンを押すと、パーティションの追加のウィンドウが表示されます。マウントポイント、ファイルシステムタイプを選択し、サイズをスピンボタンで指定し、必要に応じて追加容量オプションを選択します。

[暗号化 (E)] のチェックボックスをオンにすると、これから作成するパーティションに対して暗号化を行います (/boot パーティションを除く)。

パーティションの暗号化を選択した場合は図 4-14 の画面が表示されます。



図 4-14 パーティション新規作成

パスフレーズは8文字以上のパスフレーズを入力してください。パスフレーズは確認のため2回入力します。

4.8.3 ソフトウェア RAID 設定

図 4-11 で [作成 (C)] ボタンを押すと、図 4-12 の画面からソフトウェア RAID パーティション及びデバイスを作成することができます。

「ソフトウェア RAID を作成」の「RAID パーティション」のラジオボタンをオンにし、[作成する (R)] ボタンを押すとソフトウェア RAID パーティション作成画面が表示されるので、割り当て容量を指定し [OK (Q)] ボタンを押してください。



図 4-15 ソフトウェア RAID パーティション作成

RAID 構成に必要な数だけパーティションを作成します。その際容量は全て同一にするようにしてください。

RAID 構成に必要な数だけパーティションを作成した後、図 4-11 の画面で再度 [作成 (C)] ボタンをクリックすると、図 4-12 の画面で RAID デバイス作成のラジオボタンを選択することができるようになり、RAID デバイスの構成を行うことができます。マウントポイント、ファイルシステムタイプ、RAID デバイス、RAID レベル、RAID メンバーを選択します。

RAID レベルは RAID0、RAID1、RAID4、RAID5、RAID6、RAID10 が使用できます。



図 4-16 RAID デバイス作成画面

必要な全ての RAID デバイスを構成したら、[次 (N)] ボタンを押し、次のステップに進みます。



図 4-17 パーティション構成例

4.8.4 LVM 設定

図 4-11 で [作成 (C)] ボタンを押し、図 4-12 の画面で [作成する (R)] を選択すると LVM を構成し、その上に必要な論理ボリュームを作成することができます。



図 4-18 物理ボリューム作成

LVM を構成する事前準備としてディスク上に物理ボリューム用のパーティションを割り当てる必要があります。LVM 物理ボリュームのラジオボタンを選択し、[作成する (R)] ボタンを押し LVM 物理ボリュームを作成します。

LVM 用の物理ボリューム作成ができれば、[作成 (C)] を選択し LVM ボリュームグループの作成を行います。



図 4-19 ボリュームグループ作成

LVM ボリュームグループの作成後、LVM 論理ボリュームのラジオボタンを選択し [作成する (R)] ボタンを押します。マウントポイント、ファイルシステムタイプ、容量を指定し論理ボリュームを作成します。



図 4-20 論理ボリューム作成

必要な全ての論理ボリュームを構成したら、[次 (N)] ボタンを押し、次のステップに進みます。



図 4-21 論理ボリューム作成後

4.9 ブートローダー

Asianux Server をインストールしたコンピュータをサーバーとして運用する場合は、GRUB を MBR にインストールすることを推奨します。それ以外の場所にインストールする場合は、「デバイスの変更(C)」をクリックし、ブートローダーのインストール場所を指定してください。



図 4-22 ブートローダー

注意：

- パーティション設定で [パーティションレイアウトをレビューまたは修正 (V)] のチェックボックスをオフにした場合、この画面は表示されません。
- すでにブートローダーが MBR（マスターブートレコード）にインストールされている場合、GRUB をインストールする場所に MBR を指定すると、既存のブートローダーが上書きされます。既存のブートローダーを残す場合は [ブートパーティションの最初のセクタ] を選択してください。

4.10 パッケージ選択



図 4-23 パッケージ選択

次の 9 種類のインストールタイプから用途に応じてインストールするパッケージを選択します。

- **基本サーバー** —— 基本的なサーバーのパッケージが含まれています。
- **データベースサーバー** —— MySQL、PostgreSQL などのデータベース用途のパッケージが含まれています。
- **Web サーバー** —— httpd などの Web サーバー向けのパッケージが含まれています。
- **識別管理サーバー** —— OpenLDAP などの企業向け認証サーバー用のパッケージが含まれています。
- **仮想化ホスト** —— KVM などの仮想化パッケージが含まれています。
- **デスクトップ** —— デスクトップとして使用するためのパッケージが含まれています。
- **ソフトウェア開発ワークステーション** —— ソフトウェア開発パッケージが含まれています。
- **すべて** —— すべてのパッケージがインストールされます。
- **最低限** —— システムが起動するための最小限のパッケージのみがインストールされます。X Window System やデスクトップ環境、サーバープログラムなどはインストールされません。

これら 9 種類のインストールタイプから一つを選んで [次 (N)] をクリックすると、インストールが自動的に開始されます。

[今すぐカスタマイズ (C)] ラジオボタンを選んで [次 (N)] をクリックすると、パッケージのカスタマイズ画面に進みます。

注意：

- インストールするパッケージの合計サイズ+ 500MB（作業領域）の空き容量が、/usr ディレクトリのパーティションに必要です。警告が表示された場合はパッケージまたはパーティションを調整してください。
- 仮想化パッケージは仮想化環境上では利用できないため選択できません。
- ここで [次 (N)] ボタンを押すと自動的にインストールが開始されます。この次のステップからは戻ることができませんので注意してください。

4.10.1 パッケージのカスタマイズ

インストールするパッケージをグループ単位で選択できます（図 4-24）。グループを選択した状態で [オプションパッケージ (O)] をクリックすると、そのグループ中に含まれるパッケージを個別に選択できます（図 4-25）。



図 4-24 パッケージグループの詳細

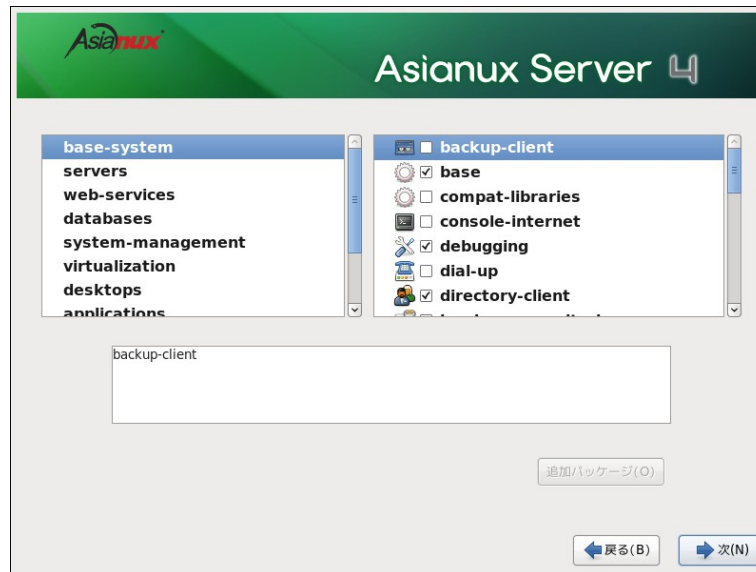


図 4-25 パッケージのカスタマイズ

4.11 インストール

パッケージの選択が終了すると、インストールが始まります。インストールが終了するまでしばらくお待ちください。



図 4-26 インストール

4.12 インストール完了

Asianux Server のインストールが完了しました。



図 4-27 インストール完了

フロッピーディスクが FDD に入っている場合は取り出してください。

DVD-ROM ドライブからトレイが排出されたら、インストール DVD メディアを取り出します。[再起動 (T)] をクリックしてシステムを再起動してください。

注意：

- インストール DVD メディアが DVD-ROM ドライブに入っている場合、[再起動 (T)] をクリックすると DVD メディアが排出されます。すぐにメディアを取り出さないと、再びトレイが格納されますので注意してください。
- インストール DVD メディアの取り出しに失敗した場合は、BIOS 表示されたときに DVD-ROM ドライブのイジェクトボタンを押して取り出してください。その後、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押してコンピュータを再起動してください。
- ネットワークインストールを行った場合は、DVD-ROM ドライブからトレイが排出されません。

4.13 インストール後の設定

この後の設定は X Window System をインストールした場合のみ行われます。



図 4-28 インストール後の設定

システムを再起動しますと X Window System が立ち上がり、図 4-28 の「ようこそ」画面が表示されます。[進む (E)] ボタンを押して次の画面に進みます。

4.14 ライセンス情報



図 4-29 ライセンス情報

製品に付属の使用権許諾書を確認してください。必ず全文を読んだ上で選択してください。

同意する場合は、[同意する (Y)] をチェックしてから [進む (F)] をクリックしてください。

同意しない場合は、[同意しない (Q)] をチェックします。ライセンス同意書の再読についてのダイアログが表示されますので、[ライセンスを再読 (R)] あるいは [シャットダウン (S)] をクリックしてください。

4.15 ソフトウェア更新の設定

Asianux TSN に接続する設定を行います。

ソフトウェア更新の設定の前に、あらかじめこちら (ユーザー登録 / 製品登録

<https://www.miraclelinux.com/user/index.html>) でユーザー登録と製品登録を完了しておいてください。登録をいますぐ行う場合は、[いますぐ登録します (Y)] をチェックしてから [進む (F)] をクリックしてください。

後から登録を行うこともできます。その場合は [後から登録します (N)] にチェックを入れ、[進む (F)] をクリックしてください。インストール後の設定が終了しシステムにログインした後にソフトウェア更新の

設定を行います。GNOME の場合はメニューバーの「管理」→「TSN への登録」を選択し、KDE の場合は Kickoff アプリケーションランチャーから「アプリケーション」→「Register for software updates from Asianux TSN」を選択してください。あるいはコマンドラインから `tsn_register` コマンドで設定を行うことができます。

登録を行わない場合の設定の続きは 4.16 をご覧ください。



図 4-30 ソフトウェア更新の設定


ソフトウェア更新の設定を行う場合は、プロダクトキーを入力してください。



The screenshot shows a web interface for entering a product key. On the left is a green sidebar with a menu: 'ようこそ' (Welcome), 'ライセンス情報' (License Information), 'ソフトウェア更新の設定' (Software Update Settings), 'ユーザーの作成' (User Creation), '日付と時刻' (Date and Time), and 'Kdump'. The main area has a heading 'プロダクトキーを入力してください。' (Please enter the product key.) and a text input field with the placeholder 'プロダクトキーを入力してください。'. Below the field is a link '高度な Network 設定 (N) ...'. At the bottom right are buttons '戻る (B)' and '進む (F)'.

図 4-31 プロダクトキーの設定

プロダクトキーを入力した後、次にログイン名とパスワードを入力します。



The screenshot shows the 'Asianux TSN ログイン' (Asianux TSN Login) screen. The left sidebar is identical to the previous screen. The main area has a heading 'Asianux TSN ログイン' and instructions: 'Asianux TSN のアカウント情報を入力してください。ログインアカウントとパスワードをお持ちでない場合には、次のウェブサイトで入手してください。' (Please enter your Asianux TSN account information. If you do not have a login account or password, please obtain them from the following website.) and the URL 'https://users.miraclelinux.com/user.html'. There are three input fields: 'ログイン名 (L):', 'パスワード (P):', and 'システム名 (N):' with the value 'axs4sp4-ia32' entered. At the bottom right are buttons '戻る (B)' and '進む (F)'.

図 4-32 TSN ログインの設定

登録に成功すると、次の画面が表示されます。



図 4-33 ソフトウェア更新の設定の完了

4.16 ユーザーの作成

ここで一般ユーザーの作成を行います。ユーザー名 (U)、フルネーム (E)、パスワード (P)、パスワードの確認 (C) をそれぞれ入力してください。

図 4-34 ユーザーの作成

ホームディレクトリの設定やユーザー ID (UID) の指定が必要であれば、「高度な設定 (A)」ボタンを押すと詳細に設定することができます。

4.17 日付と時刻



図 4-35 日付と時刻

日付と時刻を設定します。手動で設定する場合には、カレンダー上の日付をクリックし、時間はスピンボタンをクリックして入力するか、直接数値を入力します。

NTP サーバーを用いて時間を同期するには、「ネットワーク上で日付と時刻を同期化します (Y)」にチェックを入れます。NTP サーバーの入力画面に切り替わりましたら「追加 (A)」ボタンを押し、NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。

設定が終わりましたら「進む (E)」ボタンを押します。NTP を設定した場合は ntp サービスが起動し、時間の同期を始めます。

4.18 kdump

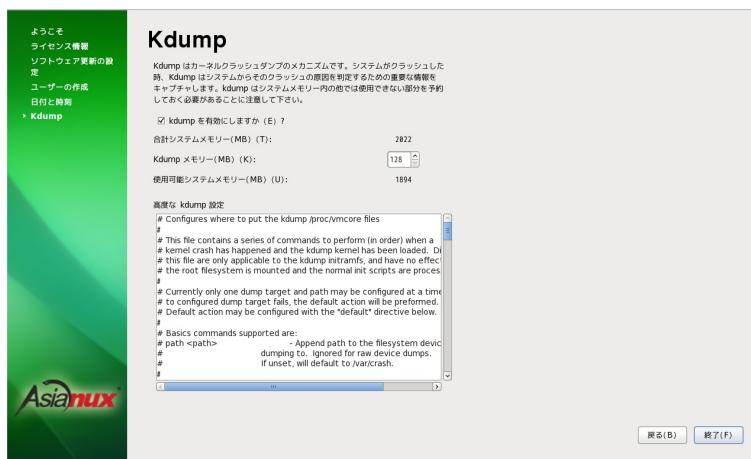


図 4-36 kdump

kdump の設定を行います。kdump 用のメモリが足りない場合には、「kdump を設定するにはメモリが足りません。」というダイアログが表示されます。[OK (O)] ボタンを押して先に進みます。

kdump 用のメモリが十分な場合は設定画面が表示されますので、kdump を無効にしたい場合はチェックをはずします。kdump メモリを変更する場合はスピンボタンで変更するか、数値を入力します。kdump の設定はインストール終了後に system-config-kdump コマンドでも設定を行うことができます。



図 4-37 kdump の設定画面

[終了 (F)] ボタンを押すと、kdump の設定を変更した場合、再起動を求めるポップアップメッセージが表示されます。再起動する場合は [はい (Y)] ボタンを、再起動しない場合は [いいえ (N)] ボタンを押してください。再起動する場合はインストール後の設定 (firstboot) 終了後に再起動が行われます。

4.19 インストール後の設定の終了

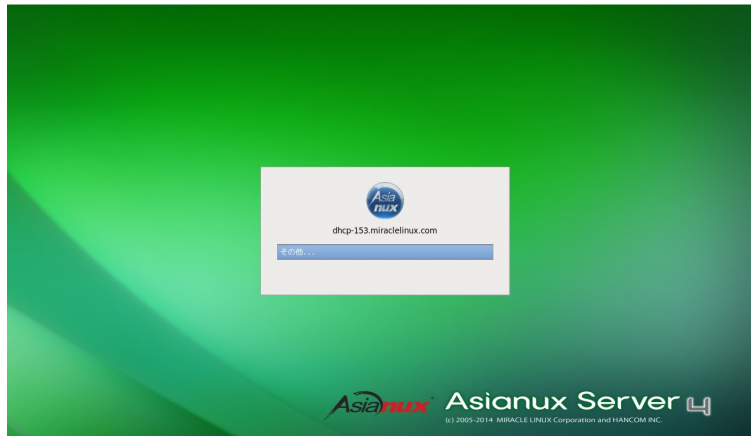


図 4-38 インストール後の設定の終了

グラフィカルモードのログイン画面が表示されます。これでインストール後の設定は終了です。

第5章 テキストモード

この章で説明する内容

目的	テキストモードでのインストールを理解する	
機能	テキストモードが提供するシステム構成、パッケージ構成	
設定ファイル		
章の流れ	1 概要 2 言語選択 3 キーボード 4 デバイスの選択	5 タイムゾーン設定 6 root パスワード 7 パーティション 8 インストール完了
関連 URL		

5.1 概要

テキストモードでのインストールについて、表示される画面をもとに説明します。

テキストモードでは、カーソルを項目に合わせてキーを押すことで項目を選択します。

項目間のカーソル移動	[Tab]、[←]、[→]、[Alt] + [Tab]、[Shift] + [Tab]
選択リスト内のカーソルの移動	[↑]、[↓]
チェックボックスの選択	[Space]
選択項目の決定	[Enter]、[Space]

また、画面下部に表示されるボタンにカーソルを合わせて [Enter] キーを押すことで画面を操作できます。[OK] を選ぶか [F12] キーを押すと、その画面で選択した項目を確定して、次の画面を表示します。[Back] を押すと前の画面に戻ります。

テキストモードのパーティションの画面で [Write changes to disk] を押す前であれば、いつでもインストールを中止できます。インストールを中止する場合は、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押す（[Ctrl] キーを押しながら [Alt] キーを押し、さらに [Delete] キーを押す）か、コンピュータ本体にあるリセットスイッチを押します。ただし、パーティションの設定は反映されるので、パーティションを変更した場合は、その時点での既存データは消去されています。

注意：

- テキストモードではパーティションはデフォルトのレイアウトで設定され、パッケージも最低限のパッケージしかインストールされません。自由にパーティションを設定したり、インストールするパッケージを選択するには、グラフィカルモードを使用するか、VNC インストール、あるいはキックスタートインストールを行ってください。
またネットワークの設定やインストールするパッケージの指定もできません。グラフィカルインストールを使用するか、VNC インストール、あるいはキックスタートインストールを行ってください。
- テキストモードインストールの場合、日本語が表示できないため、インストール時の言語は英語となります。

- システムのメモリが640MB 未満ですと自動的にテキストインストールになります。グラフィカルインストールを行いたい場合は、メモリを 640MB 以上に増やしてください。

ブート画面が表示されましたら、[ESC] キーを押してブートプロンプトを表示させます。次のオプションを入力し、テキストモードを開始します。(第 3 章参照)

```
boot: linux text
```

テキストモードでインストーラーが作動すると、図 5-1 が表示されるので [OK] を選択して次に進んでください。

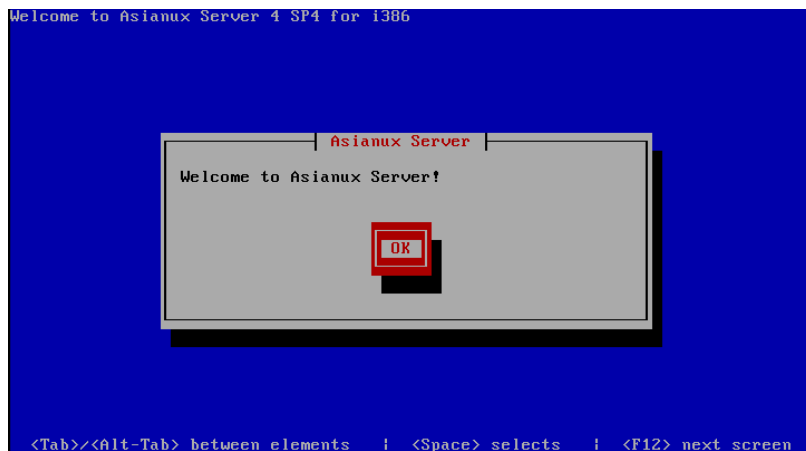


図 5-1 テキストモードの開始画面

(DVD-ROM ドライブからインストールする場合、図 5-1 が表示される前に、43 ページ 図 3-2 の DVD メディアの読み込みテスト実行確認画面が表示されます。)

5.2 言語選択 (Language Selection)

システムで使用する標準の言語を一覧から選択します。

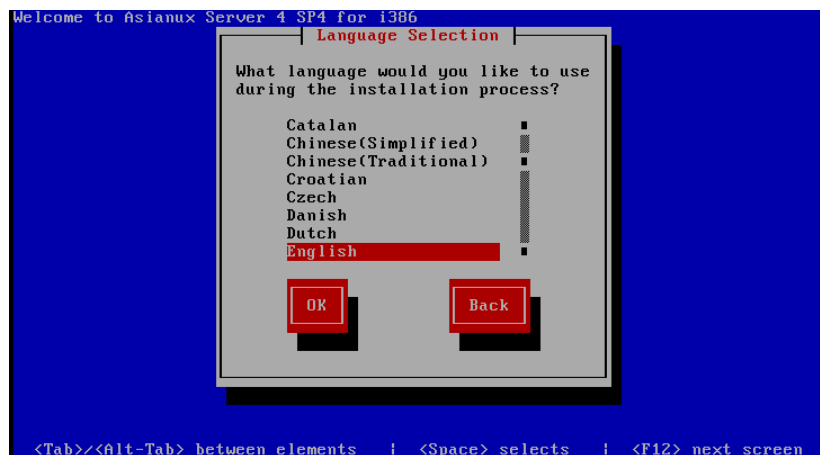


図 5-2 言語選択

テキストモードでは日本語が表示できない旨のメッセージが表示されるので、[OK] を選択して進みます。

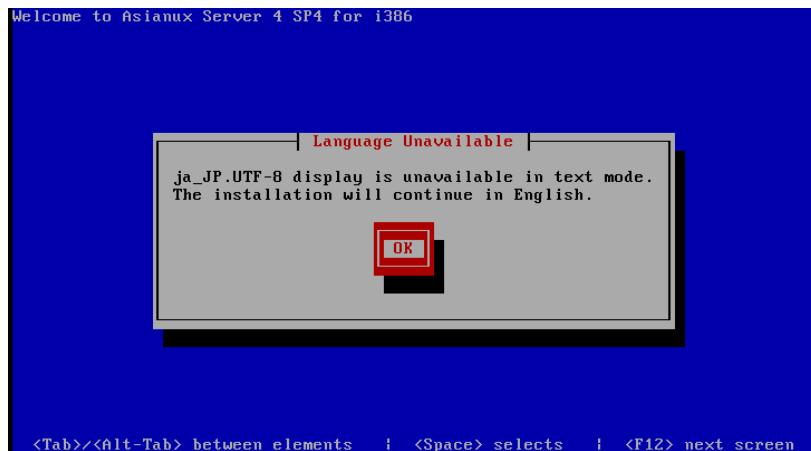


図 5-3 テキストモードの表示言語に関するメッセージ

5.3 キーボード

使用するキーボードを選択します。

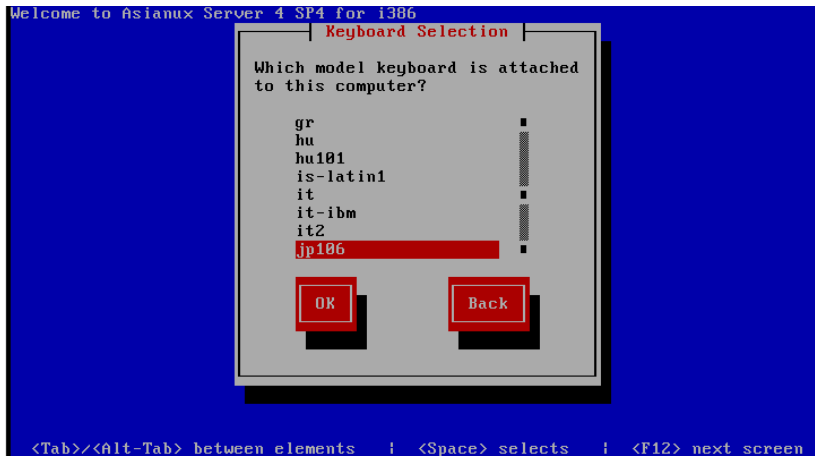


図 5-4 キーボード設定

- 日本語配列のキーボードの場合は [jp106] を選択してください。
- 英語配列のキーボードの場合は [us] を選択してください。

5.4 デバイスの選択

既に Linux がインストールされている場合、次の画像が表示されます。(初めてインストールする際にはこの画面は表示されません。)

再インストールをする場合は、[Reinstall System] を、既存のシステムをアップグレードする場合は既存のシステムを選択してください。

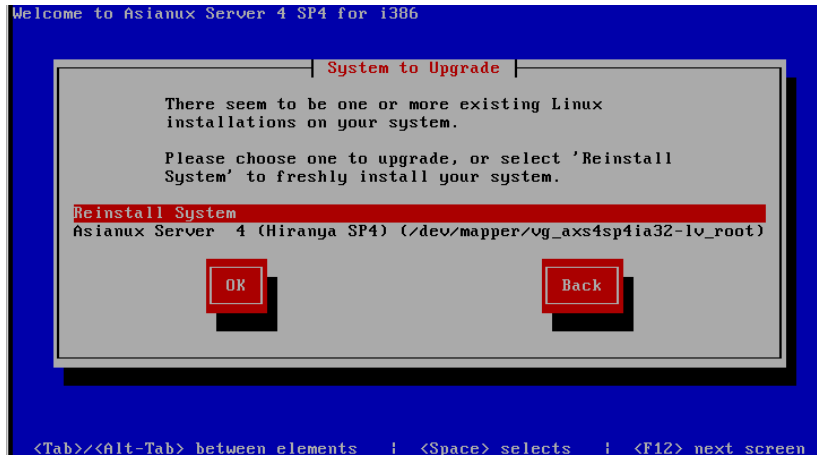


図 5-5 アップグレードを行うシステムの選択

5.5 タイムゾーン設定

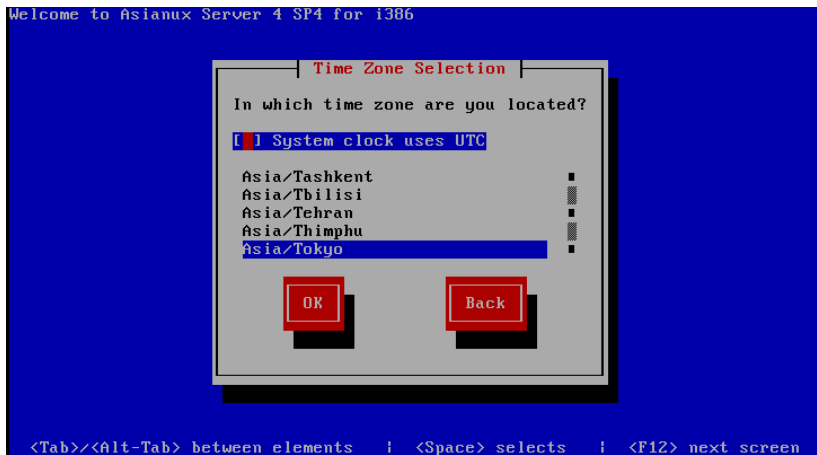


図 5-6 タイムゾーン設定

言語の選択で日本語を選択した場合は、タイムゾーンが [Asia/Tokyo] に自動的に設定されます。それ以外のタイムゾーンは、タイムゾーンに表示されている一覧表から選択して決定してください。システムクロックに UTC を使用する場合は [System clock uses UTC] を選択してください。

5.6 root パスワード

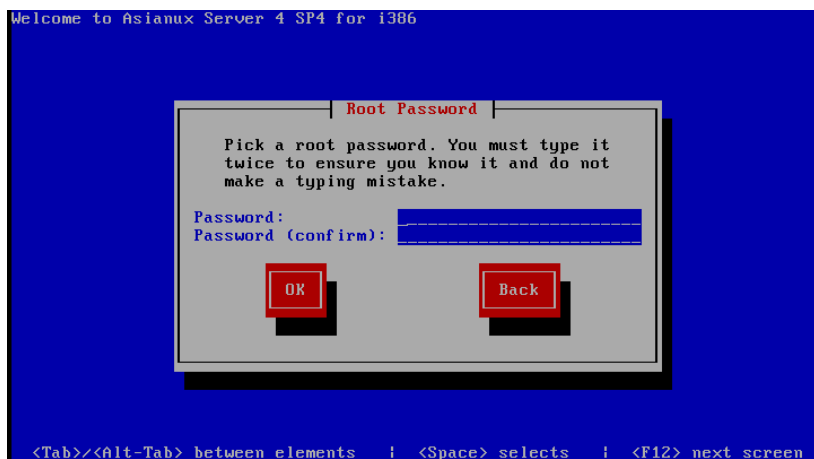


図 5-7 root パスワード設定

システムの root ユーザーのパスワードを設定します。確認のため 2 回入力します。

辞書の単語を用いた弱いパスワードを入力すると、「パスワードが弱すぎます。」というダイアログが表示されます。以下の注意で説明されているようなパスワードを指定するようにしてください。

注意：

- パスワードは 6 文字以上でなければなりません。覚えやすく、容易に推測できないもので、大文字、小文字、数字、記号を含むものが良いパスワードだとされています。
- 辞書に載っている単語、固有名詞（人名、地名）、個人情報（ニックネーム、電話番号）、キーボードの並び順を使用したパスワードなどの弱いパスワードを使用しないようにしてください。
- root は強力な権限を持っています。外部からの侵入者に容易に推測できるパスワードを設定していると、システムが侵入者に制御される恐れがあります。

5.7 パーティション

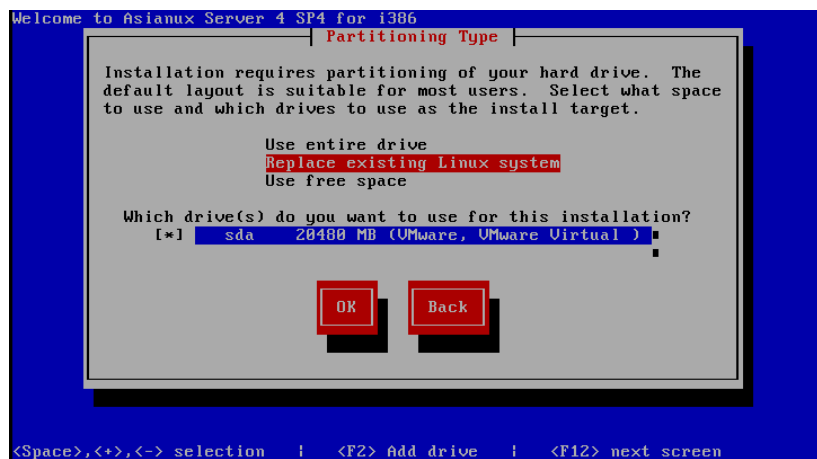


図 5-8 自動パーティション設定

パーティションの設定方法を以下の3つから選択します。

- **Use entire drive**
選択したドライブ上の全てのパーティションを削除してデフォルトのレイアウトを作成します。
- **Replace existing Linux system**
選択したドライブ上の linux パーティションを削除してデフォルトのレイアウトを作成します。
- **Use free space**
選択したドライブ上の空き領域を使用して、デフォルトのレイアウトを作成します。

これらの3つの設定方法では自動でデフォルトのパーティションが設定されます。現在のパーティションを消去したくない場合は [Use free space] を選択します。

注意：

- テキストモードでは自由なパーティションのレイアウトを行うことができません。パーティションの構成を変更したい場合は、グラフィカルインストールを行うか、VNC インストール、あるいはキックスタートインストールを行ってください。
- システムにすでにデータが格納されている場合には、安全のために、必ず事前にバックアップしておいてください。

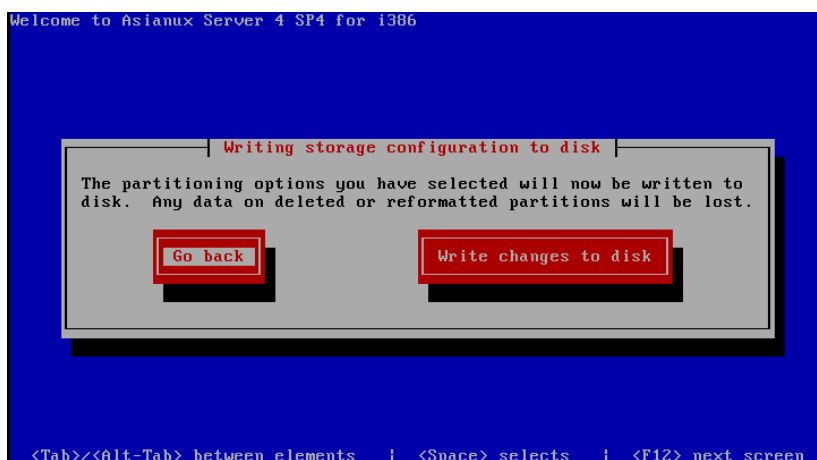


図 5-9 パーティションの書き込み確認

これらの3つのいずれかを選ぶと、「パーティションへの変更をディスクに書き込みますか」という旨のメッセージが表示されるので、書き込む場合は [Write changes to disk] ボタンを押してください。変更を書き込まずに前の画面に戻る場合は [Go back] を選択します。

注意：

- ここから先に進むと自動的にインストールが開始されます。もしインストールを中止したり、戻る場合はここで行ってください。

[Write changes to disk] を選択した場合、パーティションが作成された後、そのままインストールが始まります。

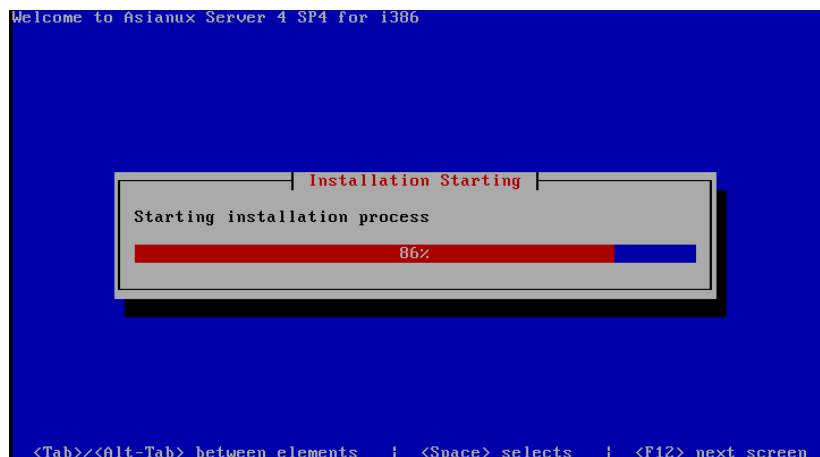


図 5-10 インストール画面

5.8 インストール完了

Asianux Server のインストールが完了しました。

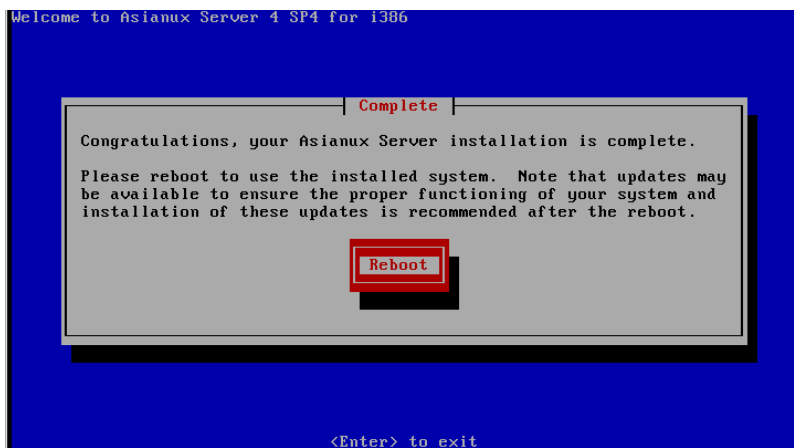


図 5-11 インストール完了

[Reboot] ボタンを押すと再起動を行います。フロッピーディスクがFDDに入っている場合は取り出してください。

注意：

- インストールDVD メディアの取り出しに失敗した場合は、BIOS 表示されたときにDVD-ROM ドライブのイジェクトボタンを押して取り出してください。その後、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押してコンピュータを再起動してください。
 - ネットワークインストールを行った場合は、DVD-ROM ドライブからトレイが排出されません。
 - ネットワークの設定やパッケージの追加は再起動後に行うことができます。
-

第6章 kickstart インストール

この章で説明する内容

目的	kickstart インストールを使用できるようになる
機能	kickstart インストールファイル準備、キックスタートの実行
設定ファイル	anaconda-ks.cfg ks.cfg
章の流れ	1 概要 2 kickstart インストールの設定 3 kickstart インストールの実行
関連 URL	

6.1 概要

Asianux Server をインストールする場合、通常はインストーラーを使用して、さまざまな事項を対話的に設定する必要があります。

しかし、インストール時に設定する項目を記述したファイルをあらかじめ用意しておくことで、一連のインストール作業を自動化することができます。この自動化の仕組みを **kickstart インストール** と呼びます。

同一環境のサーバーを多数構築する場合などは、kickstart インストール機能を使うことで、作業を大幅に省力化できます。

この章では、kickstart インストールに必要な設定ファイル (**ks.cfg**) と、kickstart インストールの実行方法について説明します。

6.2 kickstart インストールの設定

6.2.1 anaconda-ks.cfg ファイルの利用

kickstart インストールを行うために、インストール設定内容を記述した設定ファイル **ks.cfg** が必要になります。

Asianux Server では、通常対話的なインストールを 1 回実施すると、インストールが完了した後に、そのインストールでの構成情報をファイル **/root/anaconda-ks.cfg** に出力します。このファイルは、そのまま **ks.cfg** として再利用できます。**anaconda-ks.cfg** の例を次ページに示します。

ただし、**anaconda-ks.cfg** は、パーティション構成情報がコメントアウトされているため、この状態のまま **ks.cfg** として使用すると、パーティション情報をインストール画面から手動で入力する必要があります。

kickstart インストールをしようとしているマシンのハードディスク構成が、**anaconda-ks.cfg** が作成されたマシンと同じで、同じパーティションの構成でインストールする場合には、パーティション構成情報の行頭にある「#」を削除することでコメントを外すことにより、全自動でインストールできるようになります。

anaconda-ks.cfg の例 :

```
# Kickstart file automatically generated by anaconda.

#version=DEVEL
install
cdrom
lang ja_JP.UTF-8
keyboard jp106
network --onboot no --device eth0 --bootproto dhcp --noipv6
rootpw --iscrypted
$6$SJ2Wb7poLckonsIe$Cw6YJIYH./VnYk6iv0U1QUdK0kGvCUgIkcpLv6CJ6rsmqsFDk.Ev0Bp.yrWdUUyc
Mkj0Char5uqztk41Rtlav/

firewall --service=ssh
authconfig --enablesshadow --passalgo=sha512
selinux --enforcing
timezone Asia/Tokyo
bootloader --location=mbr --driveorder=sda --append="crashkernel=auto rhgb quiet"
# The following is the partition information you requested
# Note that any partitions you deleted are not expressed
# here so unless you clear all partitions first, this is
# not guaranteed to work
#clearpart --linux --drives=sda

#part /boot --fstype=ext4 --size=500
#part pv.008002 --grow --size=1

#volgroup vg_axs4sp4ia32 --pesize=4096 pv.008002
#logvol / --fstype=ext4 --name=lv_root --vgname=vg_axs4sp4ia32 --grow --size=1024
--maxsize=51200
#logvol swap --name=lv_swap --vgname=vg_axs4sp4ia32 --grow --size=2048
--maxsize=2048

repo --name="Asianux Server" --baseurl=cdrom:sr0 --cost=100

%packages
@base
@basic-desktop
@client-mgmt-tools
@core
@debugging
@desktop-debugging
```

パーティション構成情報
(コメントアウトされている)

kickstartでインストールDVD メディアからインストールする場合
--baseurl=file:///mnt/source
に書き換えてください。

```
@desktop-platform
@directory-client
@fonts
@general-desktop
@graphical-admin-tools
@input-methods
@internet-browser
@java-platform
@legacy-x
@network-file-system-client
@perl-runtime
@print-client
@remote-desktop-clients
@server-platform
@server-policy
@x11
mtools
pax
python-dmidecode
oddjob
wodim
sgpio
genisoimage
device-mapper-persistent-data
abrt-gui
samba-winbind
certmonger
pam_krb5
krb5-workstation
libXmu
perl-DBD-SQLite
%end
```

注意：

- anaconda-ks.cfg に `repo --name="Asianux Server" --baseurl=cdrom:sr0 --cost=100` の行が anaconda-ks.cfg に含まれていますが、インストール DVD メディアから kickstart インストールを行う場合、この行の `baseurl` オプションを “`--baseurl=file:///mnt/source`” に書き換えてください。途中でインストールが停止してしまうことがあります。

6.2.2 キックスタート設定ツールの利用

GUI のキックスタート設定ツールを利用して、容易に **ks.cfg** ファイルを作成することができます。

ツールの起動方法は、Gnome の場合、メニューバーの[アプリケーション]メニューから「システムツール」-「キックスタート」を選択します。KDE の場合、Kickoff アプリケーションランチャーから[アプリケーション] -「システム」-「キックスタート」を選択します。system-config-kickstart がインストールされていない場合は、インストールを行ってから設定ツールを起動してください。

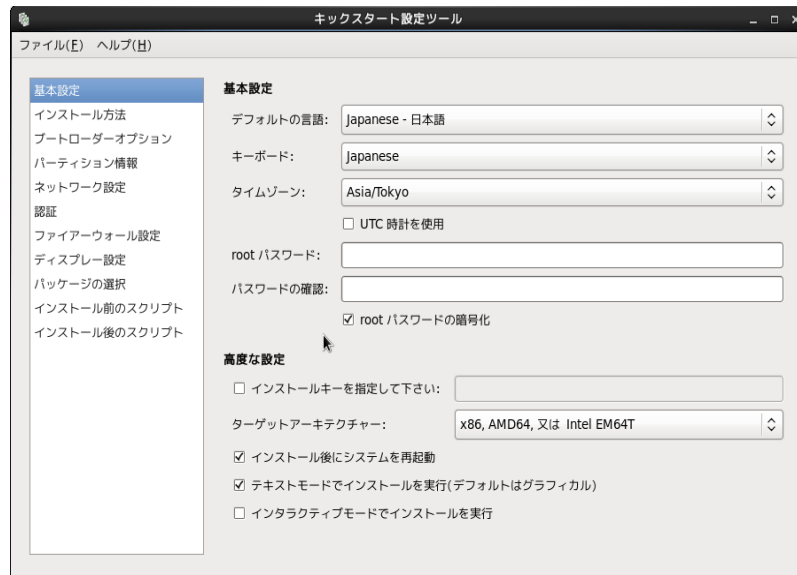


図 6-1 キックスタート設定ツール

ks.cfg ファイルを作成するには、各種インストール設定項目を指定した後、メニューの「ファイル」-「保存」を選択します。

6.3 kickstart インストールの実行

6.3.1 設定ファイルのコピー

用意した kickstart インストールの設定ファイル **ks.cfg** をキックスタート用の USB メモリにコピーします。root でログインして、設定ファイルのあるディレクトリに移り、設定ファイルを USB メモリにコピーします。

次の例では /dev/sdb で認識された USB デバイスを /mnt/usb にマウントして設定ファイルをコピーします。(マウントする場所は環境に合わせて読み替えてください。)

```
# /bin/mkdir -p /mnt/usb
# /bin/mount /dev/sdb1 /mnt/usb
# /bin/cp ks.cfg /mnt/usb
# /bin/umount /mnt/usb
```

あるいは設定ファイル **ks.cfg** をネットワーク上にコピーします。**ks.cfg** を NFS ファイルサーバー、ftp、HTTP サーバーの任意の場所に置いてください。

次の例は scp で設定ファイルを HTTP サーバーにコピーします。

```
# scp ks.cfg root@10.2.101.5:/var/www/html/axs4
```

6.3.2 kickstart インストールの実行

kickstart インストールを行うコンピュータの電源を入れ、インストール DVD メディアを挿入します。

しばらくすると、インストールの最初の画面 (36 ページの図 3-1) が表示されます。ここで [Esc] キーを押すと画面の下部に「boot:」と表示されますので、**ks.cfg** をコピーした USB メモリを USB コネクタに挿入し、次のコマンドを実行してください。

次の例は設定ファイルを /dev/sdb1/ks.cfg にコピーした場合の例です。(設定ファイルの場所は環境に合わせて読み替えてください。)

```
boot: linux ks=hd:sdb1:/ks.cfg
```

ks.cfg をローカルのハードディスク上やネットワーク上に置いた場合は次のように指定します。

local	boot: linux ks=hd:<device>:/<path>/ks.cfg
floppy	boot: linux ks=floppy
CD-ROM	boot:linux ks=cdrom:/<path>/ks.cfg
NFS	boot:linux ks=nfs://<server>/<path>/ks.cfg
FTP	boot:linux ks=ftp://<server>/path/ks.cfg
HTTP	boot:linux ks=http://<server>/<path>/ks.cfg

以上により、kickstart インストールが開始されます。

注意：

- 「boot:」プロンプトが表示されている段階ではキーボード配列は英語配列となっています。
'=' の位置が日本語 106 キーボードとは異なっていますので、日本語 106 キーボードで '=' を入力する際は '=' キーの 1 つ右隣のキーを押してください。

6.3.3 ブートプロンプトなしの kickstart インストール

ブートプロンプトの入力を行わずに kickstart インストールを実行する場合は、PXE ブートを利用すると便利です。詳しくは、3.2.2 PXE ブート (38ページ) を参照してください。

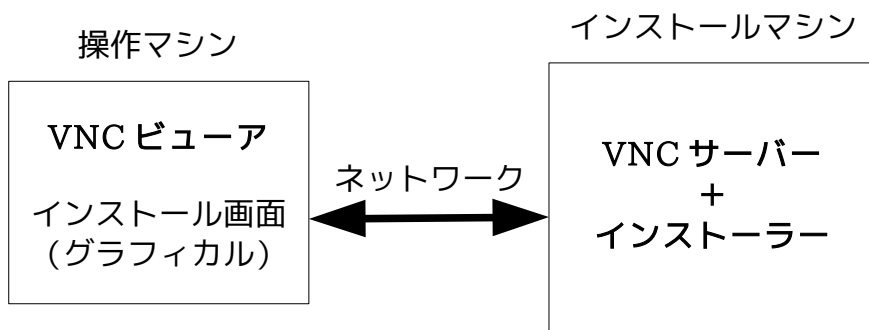
第7章 VNC インストール

この章で説明する内容

目的	VNC を利用したインストールを理解する
機能	VNC を利用したグラフィカルモードのインストール
設定ファイル	
章の流れ	1 概要 2 インストール方法
関連 URL	

7.1 概要

VNC (Virtual Network Computing) インストールは、インストールを行うマシンとは異なるマシン上からグラフィカルインターフェイスを利用してインストールを行う方法です。



この方法にてインストールを行うには、インストールを行うマシンとは別に VNC ビューアが起動できるマシンが必要になります。

7.2 インストール方法

7.2.1 tigervnc のインストール

AXS4 で VNC ビューアがインストールされていない場合、`tigervnc` をインストールしてください。

```
# rpm -ihv tigervnc-1.1.0-8.0.2.AXS4.i686.rpm
```

7.2.2 VNC ビューアの起動

VNC クライアントがインストールされたマシンで VNC ビューアを起動します。

Asianux Server 4 で VNC ビューアを利用する場合は、次のコマンドで行います。

```
$ /usr/bin/vncviewer --listen [ポート番号]
```

ポート番号を省略するとデフォルトの 5500 が使用されます。

7.2.3 インストーラーの起動

インストールを行うマシンにインストールメディアを挿入し起動します。



図 7-1 開始画面

開始画面で [ESC] キーを押した後、次のコマンドを実行し、VNC モードでインストーラーを起動します。

```
boot: linux vnc vncconnect=<client>[:<port>]
```

デフォルトでは、5500 番のポートを利用します。5500 番以外のポートを使用する場合は、次のように入力します。下記は 5000 番のポートを使用した例になります。

```
boot: linux vnc vncconnect=192.168.0.10:5000
```

また、VNC 接続時のパスワードが設定されている場合には、ブート時に **vncpassword=<password>** パスワードのオプションを追加します。

```
boot: linux vnc vncconnect=192.168.0.10 vncpassword=vncpw
```

その後テキストモードで、言語、キーボード、IP アドレスの設定をすると、以下のような画面となり、VNC ビューアとの接続が始まります。

接続に成功すると、GUI モードによるインストールが VNC ビューア上で行うことができるようになります。

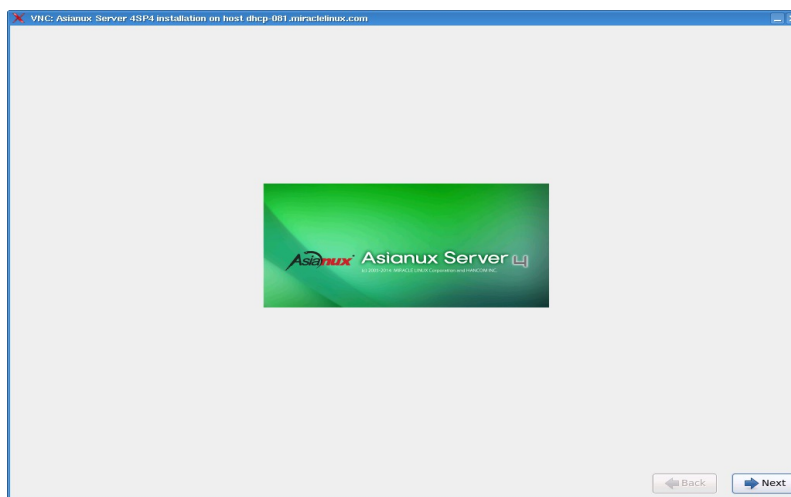


図 7-2 VNC インストール時の画面

インストールを行っている間は、サーバー側からの操作はできないようになっています。

注意：

- VNC ビューアに接続できない場合は、ファイアーウォールの設定をチェックしてください。system-config-firewall または iptables で VNC サーバーの使用するポートを許可するようにしてください。

第8章 ブートローダーのリストア

この章で説明する内容

目的	ブートローダーのリストア機能について理解する
機能	ブートローダーのリストア機能による MBR の初期化、grub の再設定
設定ファイル	
章の流れ	1 概要 2 ブートローダーのリストア機能の使用
関連 URL	

8.1 概要

ブートローダーのリストアは、ディスクなどのトラブルで、MBR の破壊やgrub の設定変更などにより、マシンが起動しなくなった場合に、MBR の初期化または GRUB の再設定を行う機能です。

ブートローダーのリストア機能を使用するには特別な準備は不要で、Asianux Server のインストールメディアから直接起動して行います。

8.2 ブートローダーのリストア機能の使用

MBR の初期化または GRUB の再設定を行いたいマシンに、インストールメディアを挿入し起動します。

その後は通常のインストールと同じく、言語選択、キーボード選択、ストレージデバイスの設定と進んでいき、その後以下の画面（図 8-1）になります。



図 8-1 ブートローダーのリストア画面

通常のインストールであれば、この部分はパーティション設定の画面となりますが、インストール済みのマシンに再度インストールを行うとこの画面（図 8-1）に変わります。

ここでは[既存インストールのアップグレード]を選択します。複数のAsianux Server がインストールされている場合はドロップダウンリストボタンから選択します。「次 (N)」ボタンを押して次に進みます。

注意：

- ファイルシステムがマウントされているため、ここから戻ることができません。もし操作をやり直したい場合は [インストーラーを終了する] (E) ボタンを押し、再起動してください。

[ブートローダー Asianux Server 4 のリストア (R)]を選択し、[次へ (N)] ボタンを押します。ブートローダーの復元方法選択画面（図 8-2）が表示されるので、復元方法を選択します。



図 8-2 ブートローダーの復元方法選択画面

[ブートローダー設定の更新 (U)]を選択し、[次 (N)]ボタンを押すと現在の設定のままブートローダーの再インストールが行われ、終了するとインストール完了画面（図 8-4）となりますので、マシン再起動を行います。



図 8-3 ブートローダー設定画面

[新しいブートローダー設定を作成 (C)] を選択し、[次 (N)] ボタンを押すと、インストール時と同じブートローダーの設定画面（図 8-3）となりますので、必要な設定を行います。その後はブートローダーの再設定と再インストールが行われ、インストール完了画面（図 8-4）となりますので、マシンの再起動を行います。



図 8-4 インストール完了画面

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 SP4 インストールガイド

2012 年 12 月 13 日 初版発行

2013 年 11 月 28 日 第 2 版発行

2014 年 1 月 30 日 第 3 版発行

2014 年 10 月 2 日 第 4 版発行

発行 ミラクル・リナックス株式会社

Copyright (C) 2012-2014 MIRACLE LINUX CORPORATION.

落丁、乱丁はお取り替えいたします。